

令和6年

鳥取県感染症発生動向調査事業報告書

令和8年3月

鳥取県福祉保健部感染症対策センター
鳥取県福祉保健部・生活環境部衛生環境研究所

〔鳥取県感染症対策センター
感染症発生動向調査検討会〕

鳥取県感染症発生動向調査について

鳥取県では感染症の発生・拡大に備えた事前対応型行政の構築の観点から、一類感染症から五類感染症の患者発生動向について、一元的に情報収集、分析及び情報の提供・公開体制を構築するとともに病原体に関する情報についても情報提供しています。

これらの情報は患者への良質かつ適切な医療の提供のために必要なものであり、今後とも患者発生の迅速な把握に努めるとともに、積極的な情報の提供・公開を実施してまいります。

目 次

令和6年感染症発生動向調査概要	1
1 定点把握対象疾患	3
(1) 令和6年の発生状況	4
ア 小児科・インフルエンザ/COVID-19・眼科・基幹定点報告疾病(ウを除く)	4
イ 性感染症(STD)定点報告疾病	16
ウ 基幹定点報告疾病	21
(2) インフルエンザ及び感染性胃腸炎の発生状況	26
2 全数把握対象疾患	27
(1) 令和6年の発生状況	28
ア 1類感染症	28
イ 2類感染症	28
ウ 3類感染症	28
エ 4類感染症	28
オ 5類感染症	28
(2) 百日咳の発生状況	31
(3) 梅毒の発生状況	33
3 新型コロナウイルス感染症のゲノム解析	34
新型コロナウイルスゲノム解析結果	35
4 感染症集団発生及び臨時休業	37
鳥取県内における感染症集団発生及び臨時休業	38
5 病原体検査状況	39
(1) 病原体検査状況	40
ア 疾病別、月別検査受入状況	40
イ 疾病別病原体検出状況	40
(2) 全数把握対象疾患	47
ア ウイルス検査状況	47
イ リケッチア検査状況	47
ウ 細菌検査状況	47
(3) 定点把握対象疾患	49
ア ウイルス検出状況	49
イ 細菌検出状況	49

6	鳥取県感染症発生動向調査情報 月報（抜粋） （鳥取県感染症対策協議会情報解析部会）	54
7	参考資料	75
	指定届出機関	
	（定点把握対象の5類感染症患者定点医療機関）	76
	指定届出機関	
	（定点把握対象の5類感染症病原体定点医療機関）	78
	鳥取県感染症対策協議会情報解析部会委員名簿	79

令和6年感染症発生動向調査概要

1 定点把握対象疾患

(1)小児科・インフルエンザ/COVID-19・眼科・基幹定点報告疾病

令和6年の患者報告数は33,948件であった。報告が多かった疾病は、新型コロナウイルス感染症9,296件、インフルエンザ8,459件及びA群溶血性レンサ球菌咽頭炎6,040件等であった。

1 定点当たりの患者報告数は、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎6.11人で全国平均3.04人よりも大幅に高く、新型コロナウイルス感染症6.16人で全国平均6.21人とほぼ同等、インフルエンザ5.61人で全国平均7.44人よりも低かった。

(2)性感染症(STD)定点報告疾病

性感染症(STD)定点報告対象4疾病(性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症)の患者報告数は545件であり、性器クラミジア感染症280件、性器ヘルペスウイルス感染症137件、尖圭コンジローマ51件及び淋菌感染症77件であった。いずれも男性の割合が高く、地域別では西部地区での割合が高かった。

(3)基幹定点報告疾病

基幹定点報告対象3疾病(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症)の患者報告数は112件であり、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症103件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症8件及び薬剤耐性緑膿菌感染症1件であった。

2 全数把握対象疾患

(1) 1類感染症

鳥取県、全国とも発生はなかった。

(2) 2類感染症

鳥取県では、結核50件の報告があった。

(3) 3類感染症

鳥取県では、腸管出血性大腸菌感染症21件の報告があった。

(4) 4類感染症

鳥取県では、レジオネラ症9件、日本紅斑熱8件、A型肝炎2件、重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)2件及びつつが虫病1件の報告があった。

(5) 5類感染症

鳥取県では、百日咳383件、梅毒41件、侵襲性肺炎球菌感染症13件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症11件、急性脳炎(ウエストナイル脳炎等を除く。)6件、アメーバ赤痢5件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症4件、侵襲性インフルエンザ菌感染症3件、水痘(入院例に限る。)2件、ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)1件、クロイツフェルト・ヤコブ病1件、後天性免疫不全症候群1件、播種性クリプトコックス症1件及び破傷風1件の報告があった。

3 新型コロナウイルス感染症のゲノム解析結果

新型コロナウイルス感染症のゲノム解析の結果では、年間を通してオミクロン系統株の流行が見られた。その中でも、特に KP.3 系統は 6 月から 10 月まで検出割合のほとんどを占める結果となった。

4 感染症集団発生・臨時休業

鳥取県内における感染症集団発生・臨時休業は、新型コロナウイルス感染症 326 件、インフルエンザ 312 件（集団発生 99 件、臨時休業 213 件）、感染性胃腸炎 49 件、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 4 件、RS ウイルス感染症 12 件、咽頭結膜熱 5 件、手足口病 33 件及びマイコプラズマ肺炎 1 件であった。

5 病原体検査状況

検体受入件数は 1,902 件であった。全数把握対象疾患では、多い順に腸管出血性大腸菌感染症 110 件、日本紅斑熱 38 件、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）22 件、麻疹 14 件、つつが虫病 12 件、風しん 11 件等であった。定点把握対象疾患では、新型コロナウイルス感染症 1,540 件、感染性胃腸炎 69 件、インフルエンザ 39 件等であった。

腸管出血性大腸菌感染症、日本紅斑熱等の 13 疾病の 16 種類 34 型（血清型、遺伝子型、遺伝子型および遺伝子群を含む）のウイルス、リケッチア及び細菌が検出された。主なものは以下のとおり。

(1) 腸管出血性大腸菌感染症

O55 が 2 件、O111 が 9 件、O146 が 1 件、O157 が 13 件等検出された。

(2) 日本紅斑熱

日本紅斑熱リケッチアが 10 件検出された。

(3) 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

SFTS ウイルスが 2 件検出された。

(4) 感染性胃腸炎

ノロウイルスが 28 件、アデノウイルス 10 件、アストロウイルス 6 件等検出された。

(5) インフルエンザ(インフルエンザ様疾患も含む)

AH3 亜型が 2 件、AH1pdm09 亜型が 22 件、B 型ビクトリア系統が 8 件等検出された。

1 定点把握对象疾患

(1) 令和6年の発生状況

ア 小児科・インフルエンザ/COVID-19・眼科・基幹定点報告疾病(ウを除く)

(ア) 県内の状況 (P5表1表2, P6表4, P7表5, P8表6参照)

令和6年の患者報告数は33,948件であり、東部地区13,816件(40.70%)、中部地区8,408件(24.77%)、西部地区11,724件(34.54%)であった。

報告の多かった疾病は、新型コロナウイルス感染症9,296件、インフルエンザ8,459件及びA群溶血性レンサ球菌咽頭炎6,040件等であった。

新型コロナウイルス感染症は、令和2年4月に県内で初めて患者が確認されて以降、新規感染者数の増減を繰り返し、その波は徐々に低くなってきたが、令和6年も夏期及び冬期を中心に流行が見られた。

インフルエンザは、令和5年に比べて患者報告数は減少したが、令和5年10月から令和6年4月まで流行が続いた(令和5年10月18日注意報発令、11月1日警報発令、令和6年1月24日警報解除、2月14日注意報発令(シーズン2回目)、3月6日注意報解除、3月13日注意報発令(シーズン3回目)、4月17日注意報解除)。また、令和6年から7年シーズンの流行開始は令和6年11月13日と新型コロナウイルス感染症発生前と比べても1か月近く早かった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、特に東部及び中部地区で患者報告数が多くあり、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が年間を通して発令中であった(令和5年10月4日警報発令、令和7年4月9日警報解除)。

マイコプラズマ肺炎は、令和4年及び5年では年間の報告数は0件であったが、令和6年では10月以降患者報告数が急増し、特に東部及び中部地区で多かった。

小児科定点での患者報告数については昨年同様未就学児が中心であったが、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎及び水痘は10歳以上でも一定数の患者が見られた。

(イ) 全国との比較 (P5表3参照)

1 定点当たりの患者報告数は、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎6.11人で全国平均3.04人よりも大幅に高く、新型コロナウイルス感染症6.16人で全国平均6.21人とほぼ同等、インフルエンザ5.61人で全国平均7.44人よりも低かった。

(ウ) 令和元年から令和5年の5年平均との比較 (P6表4, P9～15図1参照)

過去数年にわたって新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、感染症対策が県民に浸透したこと等により多くの感染症が減少傾向にあったが、大幅に増加した疾病も見られた。

増加した主な疾病は、マイコプラズマ肺炎114件(過去5年平均比582%)、無菌性髄膜炎26件(同比310%)、手足口病2,668件(同比272%)であった。

減少した主な疾病は、突発性発疹209件(同比66%)、伝染性紅斑118件(同比68%)、流行性耳下腺炎16件(同比76%)であった。

表1 令和6年患者報告状況

令和6年患者報告状況					令和5年患者報告状況	
順位	疾病名	件数	全件数に占める割合	令和5年との比較	順位	件数
1	新型コロナウイルス感染症	9,296 件	27.38%	547 件増	2	8,749 件
2	インフルエンザ(注1)	8,459 件	24.92%	2,774 件減	1	11,233 件
3	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6,040 件	17.79%	2,385 件増	4	3,655 件
4	感染性胃腸炎(注1)	4,749 件	13.99%	903 件減	3	5,652 件
5	手足口病	2,668 件	7.86%	1,765 件増	7	903 件
6	RS ウイルス感染症	821 件	2.42%	102 件減	6	923 件
7	咽頭結膜熱	802 件	2.36%	428 件増	8	374 件
8	ヘルパンギーナ	401 件	1.18%	594 件減	5	995 件
9	突発性発疹	209 件	0.62%	14 件減	9	223 件
10	水痘	136 件	0.40%	73 件増	10	63 件
	その他	367 件				92 件
	合計	33,948 件	—	1,086 件増		32,862 件

※注1 冬期に患者報告が多く見られる疾病(インフルエンザ、感染性胃腸炎)については、別集計し 26 ページに掲載。

表2 地区別患者報告状況

東部地区		中部地区		西部地区	
1	新型コロナウイルス感染症 3,366 件	1	インフルエンザ 2,364 件	1	新型コロナウイルス感染症 3,641 件
2	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3,149 件	2	新型コロナウイルス感染症 2,289 件	2	インフルエンザ 3,002 件
3	インフルエンザ 3,093 件	3	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 1,323 件	3	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 1,568 件
4	感染性胃腸炎 2,324 件	4	感染性胃腸炎 1,158 件	4	感染性胃腸炎 1,267 件
5	手足口病 1,091 件	5	手足口病 512 件	5	手足口病 1,065 件
6	その他 793 件	6	その他 762 件	6	その他 1,181 件
合計	13,816 件	合計	8,408 件	合計	11,724 件

表3 県内発生状況の全国・中国五県との比較(定点当たり)

疾病名	鳥取県	中国五県	全国
インフルエンザ	5.61	6.21	7.44
新型コロナウイルス感染症	6.16	5.65	6.21
咽頭結膜熱	0.81	0.60	0.61
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6.11	3.28	3.04
感染性胃腸炎	4.81	4.36	4.03
水痘	0.14	0.12	0.18
手足口病	2.70	3.35	4.06
伝染性紅斑	0.12	0.05	0.20
突発性発疹	0.21	0.29	0.25
ヘルパンギーナ	0.41	0.35	0.46
流行性耳下腺炎	0.02	0.03	0.04
RS ウイルス感染症	0.83	0.85	0.75
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.02
流行性角結膜炎	0.25	0.36	0.56
細菌性髄膜炎	0.04	0.02	0.02
無菌性髄膜炎	0.10	0.04	0.03
マイコプラズマ肺炎	0.44	0.68	0.88
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるものに限る)	0.06	0.02	0.01

※全国及び中国五県の数値は国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所の発表値(速報値)を集計したもの。

表4 感染症年次別発生状況(週報告)

疾病名	令和元年				令和2年				令和3年				令和4年				令和5年				令和6年				令和元年～令和5年 平均患者数			
	全県	東部	中部	西部	全県	東部	中部	西部	全県	東部	中部	西部	全県	東部	中部	西部	全県	東部	中部	西部	全県	東部	中部	西部	全県	東部	中部	西部
インフルエンザ	9,076	3,144	2,389	3,543	3,160	1,220	951	989	5	0	0	5	26	15	6	5	11,233	3,812	3,248	4,173	8,459	3,093	2,364	3,002	4,700	1,638	1,319	1,743
新型コロナウイルス感染症																	8,749	2,931	2,093	3,725	9,296	3,366	2,289	3,641				
咽頭結膜熱	853	106	257	490	319	71	93	155	324	90	81	153	221	95	51	75	374	140	126	108	802	172	290	340	418	100	122	196
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4,144	1,929	403	1,812	3,138	1,968	381	789	2,596	1,975	122	499	1,534	1,162	29	343	3,655	2,110	455	1,090	6,040	3,149	1,323	1,568	3,013	1,829	278	907
感染性胃腸炎	5,770	2,352	1,582	1,836	2,921	1,227	694	1,000	4,047	1,383	1,062	1,602	3,207	1,530	797	880	5,652	2,580	1,612	1,460	4,749	2,324	1,158	1,267	4,319	1,814	1,149	1,356
水痘	335	150	80	105	251	55	80	116	173	84	41	48	45	16	18	11	63	34	16	13	136	50	48	38	173	68	47	59
手足口病	2,879	1,120	628	1,131	125	41	17	67	415	269	88	58	591	112	120	359	903	207	294	402	2,668	1,091	512	1,065	983	350	229	403
伝染性紅斑	518	150	69	299	316	93	100	123	10	1	1	8	9	1	3	5	9	3	1	5	118	14	3	101	172	50	35	88
突発性発疹	361	115	100	146	380	138	92	150	346	114	90	142	274	83	76	115	223	48	64	111	209	45	60	104	317	100	84	133
ヘルパンギーナ	531	152	159	220	292	125	85	82	519	166	81	272	169	19	89	61	995	154	329	512	401	63	156	182	501	123	149	229
流行性耳下腺炎	42	13	17	12	23	3	10	10	21	2	13	6	5	1	3	1	14	2	7	5	16	3	8	5	21	4	10	7
RSウイルス感染症	883	313	258	312	50	9	11	30	1,401	482	435	484	930	355	216	359	923	209	223	491	821	334	123	364	837	274	229	335
急性出血性結膜炎	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0.6	0.6	0	0
流行性角結膜炎	205	72	81	52	56	35	2	19	32	17	0	15	40	29	0	11	44	27	4	13	64	31	14	19	75	36	17	22
細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として特定された場合を除く)	4	2	0	2	4	3	0	1	7	3	1	3	5	2	0	3	6	5	0	1	10	3	1	6	5	3	0	2
無菌性髄膜炎	10	7	0	3	6	2	0	4	4	2	0	2	9	5	0	4	13	8	0	5	27	16	0	11	8	5	0	4
マイコプラズマ肺炎	68	11	54	3	29	0	25	4	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	114	59	46	9	20	2	16	2
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.2	0.2	0	0
感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	43	19	23	1	3	2	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	5	4	1	0	16	3	13	0	10	5	5	0.2
計	25,724	9,657	6,100	9,967	11,073	4,992	2,542	3,539	9,902	4,589	2,015	3,298	7,066	3,425	1,409	2,232	32,862	12,275	8,473	12,114	33,948	13,816	8,408	11,724	17,325	6,988	4,108	6,230

※平均患者数については、1未満のものは小数点1ケタまで表示しています。
 ※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、指定届出機関による届出対象疾病となった令和5年第19週からの報告件数である。

表5 感染症月別発生状況(週報告)

第1週から第52週まで(令和6年1月1日～令和6年12月29日)

(下段:月別定点当たり)

月(月週数)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
疾病名	(4)	(5)	(4)	(4)	(5)	(4)	(4)	(5)	(4)	(5)	(4)	(4)	(52)
インフルエンザ	1,285 44.31	1,334 46.00	1,549 53.41	543 18.72	65 2.24	2 0.07	18 0.62	47 1.62	9 0.31	68 2.34	427 14.72	3,112 107.31	8,459 291.69
新型コロナウイルス感染症	1,177 40.59	1,572 54.21	785 27.07	468 16.14	429 14.79	315 10.86	1,254 43.24	1,773 61.14	625 21.55	291 10.03	163 5.62	444 15.31	9,296 320.55
咽頭結膜熱	43 2.26	106 5.58	90 4.74	77 4.05	162 8.53	101 5.32	79 4.16	51 2.68	22 1.16	34 1.79	15 0.79	22 1.16	802 42.21
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	503 26.47	834 43.89	515 27.11	466 24.53	901 47.42	567 29.84	423 22.26	465 24.47	400 21.05	420 22.11	292 15.37	254 13.37	6,040 317.89
感染性胃腸炎	364 19.16	714 37.58	480 25.26	440 23.16	513 27.00	326 17.16	240 12.63	251 13.21	257 13.53	346 18.21	359 18.89	459 24.16	4,749 249.95
水痘	3 0.16	9 0.47	14 0.74	8 0.42	16 0.84	28 1.47	13 0.68	12 0.63	2 0.11	3 0.16	6 0.32	22 1.16	136 7.16
手足口病	9 0.47	17 0.89	5 0.26	3 0.16	53 2.79	138 7.26	496 26.11	466 24.53	611 32.16	663 34.89	169 8.89	38 2.00	2,668 140.42
伝染性紅斑	0 0.00	0 0.00	1 0.05	0 1.00	1 0.05	1 0.05	0 0.00	3 0.16	5 0.26	15 0.79	30 1.58	62 3.26	118 6.21
突発性発疹	9 0.47	25 1.32	12 0.63	16 0.84	23 1.21	20 1.05	16 0.84	24 1.26	16 0.84	18 0.95	15 0.79	15 0.79	209 11.00
ヘルパンギーナ	0 0.00	1 0.05	2 0.11	2 0.11	32 1.68	85 4.47	148 7.79	76 4.00	44 2.32	10 0.53	1 0.05	0 0.00	401 21.11
流行性耳下腺炎	1 0.05	4 0.21	1 0.05	0 0.00	2 0.11	3 0.16	2 0.11	1 0.05	1 0.05	0 0.00	1 0.05	0 0.00	16 0.84
RSウイルス感染症	3 0.16	13 0.68	4 0.21	14 0.74	107 5.63	174 9.16	216 11.37	168 8.84	84 4.42	30 1.58	6 0.32	2 0.11	821 43.21
急性出血性結膜炎	0 0.00	1 0.20	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.20
流行性角結膜炎	7 1.40	4 0.80	3 0.60	4 0.80	5 1.00	3 0.60	4 0.80	5 1.00	5 1.00	7 1.40	12 2.40	5 1.00	64 12.80
細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を 原因として同定された場合を除く。)	2 0.40	0 0.00	0 0.00	3 0.60	0 0.00	1 0.20	2 0.40	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.40	0 0.00	10 2.00
無菌性髄膜炎	1 0.20	2 0.40	2 0.40	3 0.60	2 0.40	3 0.60	1 0.20	3 0.60	2 0.40	3 0.60	3 0.60	2 0.40	27 5.40
マイコプラズマ肺炎	0 0.00	1 0.20	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.20	1 0.20	4 0.80	21 4.20	44 8.80	42 8.40	114 22.80
クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.20	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.20
感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスで あるものに限る。)	0 0.00	1 0.20	0 0.00	0 0.00	5 1.00	4 0.80	0 0.00	1 0.20	3 0.60	0 0.00	1 0.20	1 0.20	16 3.20
計	3,407	4,638	3,463	2,047	2,317	1,771	2,913	3,347	2,090	1,929	1,546	4,480	33,948

表6 感染症年齢別患者報告数の分布(週報告)

第1週から第52週まで(令和6年1月1日～令和6年12月29日)

※インフルエンザ/COVID-19定点数は29定点

疾病名	～5カ月	～11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	合計
インフルエンザ	33 0.39%	71 0.84%	233 2.75%	254 3.00%	294 3.48%	401 4.74%	477 5.64%	540 6.38%	534 6.31%	606 7.16%	593 7.01%	1,674 19.79%	607 7.18%	407 4.81%	423 5.00%	491 5.80%	323 3.82%	228 2.70%	138 1.63%	132 1.56%	8,459
新型コロナウイルス感染症	88 0.95%	162 1.74%	263 2.83%	156 1.68%	160 1.72%	152 1.64%	147 1.58%	155 1.67%	134 1.44%	153 1.65%	134 1.44%	732 7.87%	519 5.58%	822 8.84%	874 9.40%	985 10.60%	1,029 11.07%	818 8.80%	774 8.33%	1,039 11.18%	9,296
計	121 1%	233 1%	496 3%	410 2%	454 3%	553 3%	624 4%	695 4%	668 4%	759 4%	727 4%	2,406 14%	1,126 6%	1,229 7%	1,297 7%	1,476 8%	1,352 8%	1,046 6%	912 5%	1,171 7%	17,755

※小児科定点数は19定点

疾病名	～5カ月	～11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上	合計
咽頭結膜熱	3 0.37%	54 6.73%	179 22.32%	135 16.83%	131 16.33%	107 13.34%	72 8.98%	47 5.86%	14 1.75%	26 3.24%	11 1.37%	18 2.24%	0 0.00%	5 0.62%	802
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8 0.13%	44 0.73%	394 6.52%	465 7.70%	574 9.50%	627 10.38%	697 11.54%	523 8.66%	481 7.96%	440 7.28%	354 5.86%	931 15.41%	221 3.66%	281 4.65%	6,040
感染性胃腸炎	35 0.74%	219 4.61%	725 15.27%	499 10.51%	428 9.01%	464 9.77%	477 10.04%	383 8.06%	246 5.18%	251 5.29%	201 4.23%	502 10.57%	61 1.28%	258 5.43%	4,749
水痘	2 1.47%	4 2.94%	15 11.03%	17 12.50%	16 11.76%	11 8.09%	11 8.09%	12 8.82%	9 6.62%	9 6.62%	9 6.62%	21 15.44%	0 0.00%	0 0.00%	136
手足口病	12 0.45%	162 6.07%	721 27.02%	504 18.89%	429 16.08%	365 13.68%	229 8.58%	114 4.27%	40 1.50%	23 0.86%	26 0.97%	32 1.20%	1 0.04%	10 0.37%	2,668
伝染性紅斑	0 0.00%	1 0.85%	6 5.08%	11 9.32%	11 9.32%	15 12.71%	22 18.64%	25 21.19%	8 6.78%	9 7.63%	6 5.08%	4 3.39%	0 0.00%	0 0.00%	118
突発性発疹	3 1.44%	53 25.36%	121 57.89%	25 11.96%	4 1.91%	3 1.44%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	209
ヘルパンギーナ	2 0.50%	23 5.74%	70 17.46%	60 14.96%	77 19.20%	74 18.45%	54 13.47%	18 4.49%	10 2.49%	4 1.00%	4 1.00%	4 1.00%	0 0.00%	1 0.25%	401
流行性耳下腺炎	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	3 18.75%	2 12.50%	3 18.75%	3 18.75%	1 6.25%	3 18.75%	0 0.00%	1 6.25%	0 0.00%	0 0.00%	16
RSウイルス感染症	77 9.38%	131 15.96%	323 39.34%	158 19.24%	65 7.92%	23 2.80%	17 2.07%	10 1.22%	1 0.12%	3 0.37%	2 0.24%	8 0.97%	1 0.12%	2 0.24%	821
計	142 1%	691 4%	2,554 16%	1,874 12%	1,738 11%	1,691 11%	1,582 10%	1,135 7%	810 5%	768 5%	613 4%	1,521 10%	284 2%	557 3%	15,960

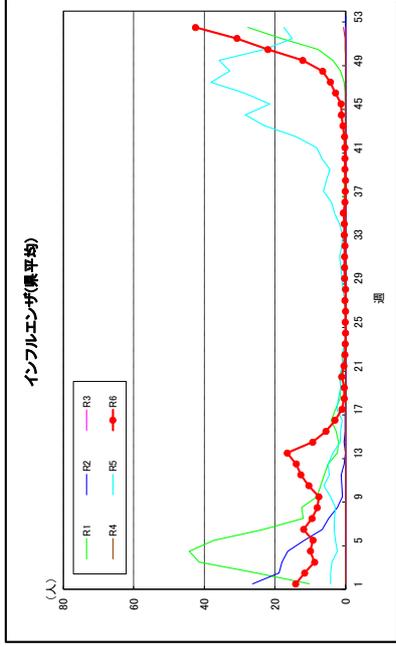
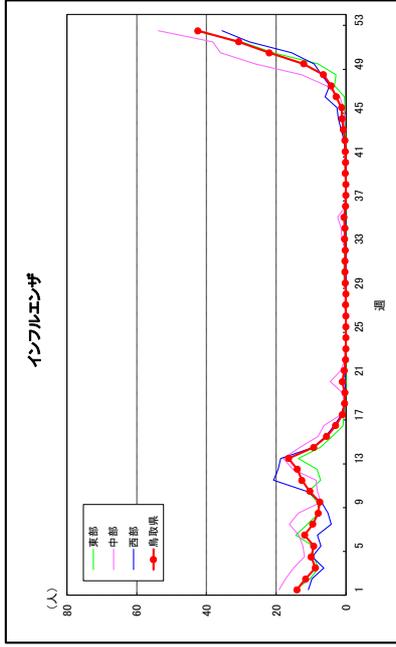
※眼科定点数は5定点

疾病名	～5カ月	～11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	合計	
急性出血性結膜炎	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 #####	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1									
流行性角結膜炎	1 1.56%	3 4.69%	2 3.13%	1 1.56%	1 1.56%	1 1.56%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.56%	1 1.56%	2 3.13%	4 6.25%	10 15.63%	10 15.63%	14 21.88%	3 4.69%	4 6.25%	6 9.38%	0 0.00%	0 0.00%	64
計	1 2%	3 5%	2 3%	2 3%	1 2%	1 2%	0 0%	0 0%	0 0%	1 2%	1 2%	2 3%	4 6%	10 15%	10 15%	14 22%	3 5%	4 6%	6 9%	0 0%	0 0%	65

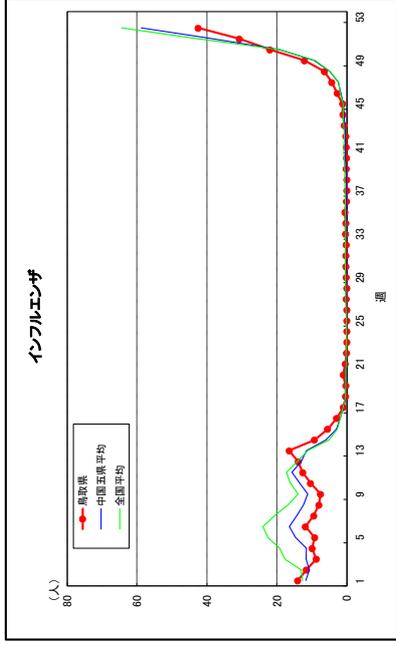
※基幹定点数は55定点

疾病名	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計
細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として特定された場合を除く)	1 10.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 10.00%	1 10.00%	0 0.00%	1 10.00%	1 10.00%	5 50.00%	10							
無菌性髄膜炎	7 25.93%	1 3.70%	1 3.70%	2 7.41%	1 3.70%	1 3.70%	2 7.41%	1 3.70%	2 7.41%	1 3.70%	1 3.70%	1 3.70%	0 0.00%	0 0.00%	1 3.70%	5 18.52%	27
マイコプラズマ肺炎	4 3.51%	21 18.42%	49 42.98%	27 23.68%	7 6.14%	3 2.63%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	2 1.75%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 0.88%	114
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 #####	1
感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	5 31.25%	5 31.25%	4 25.00%	1 6.25%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 6.25%	16
計	17 10%	27 16%	54 32%	31 18%	9 5%	4 2%	2 1%	1 1%	2 1%	1 1%	1 1%	3 2%	0 0%	1 1%	2 1%	13 8%	168

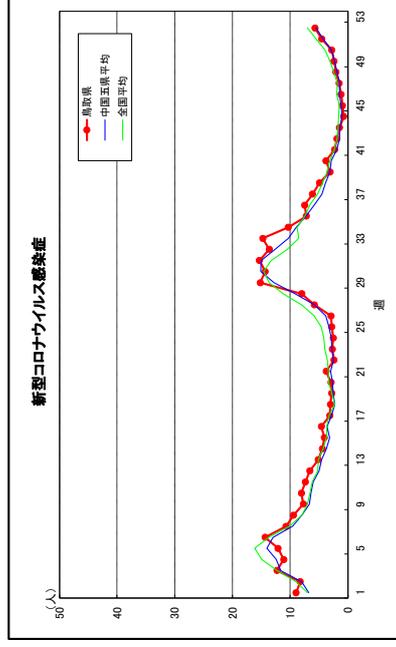
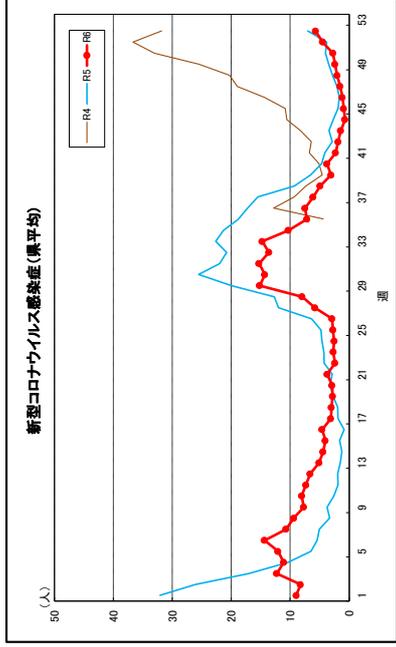
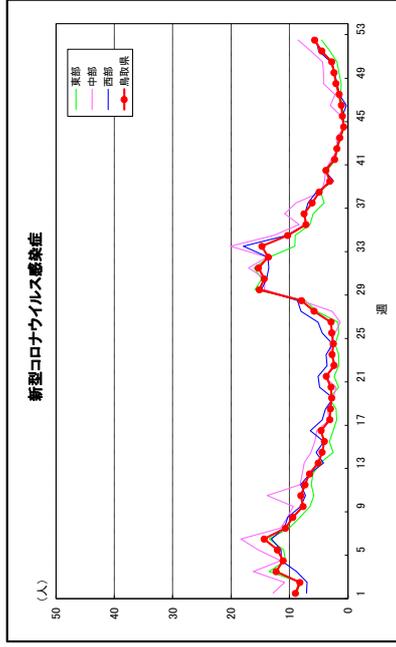
地区別発生状況



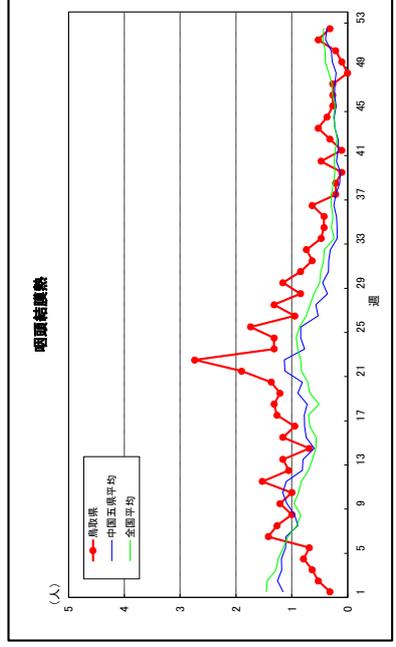
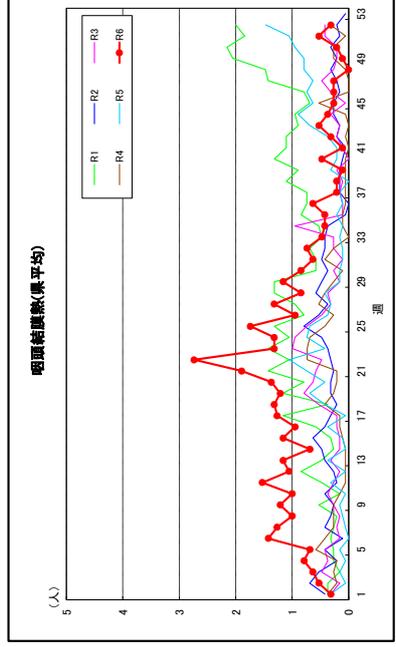
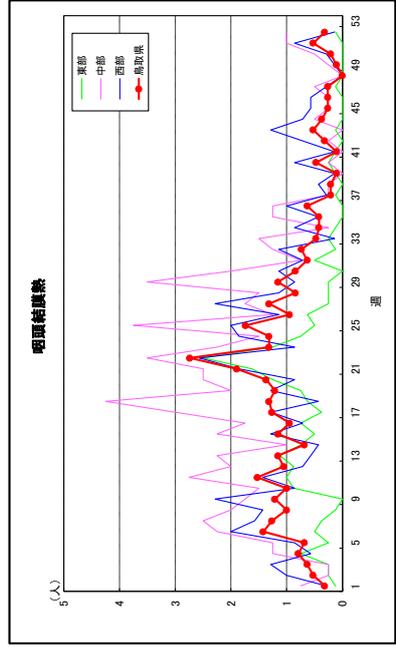
年次別発生状況



鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較



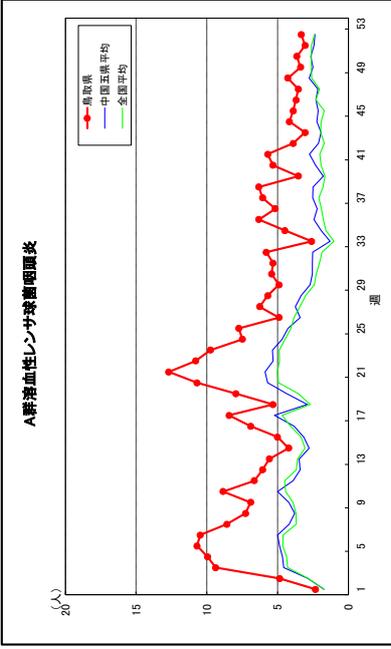
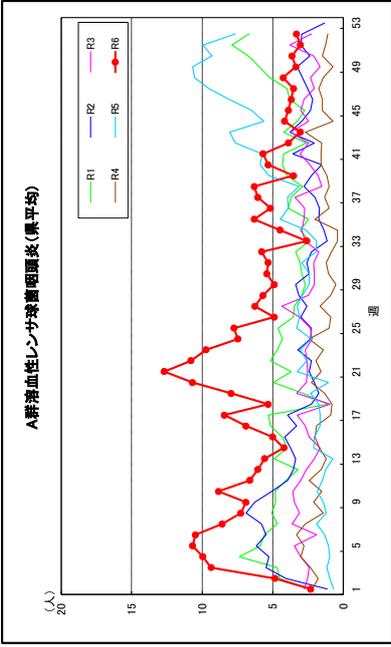
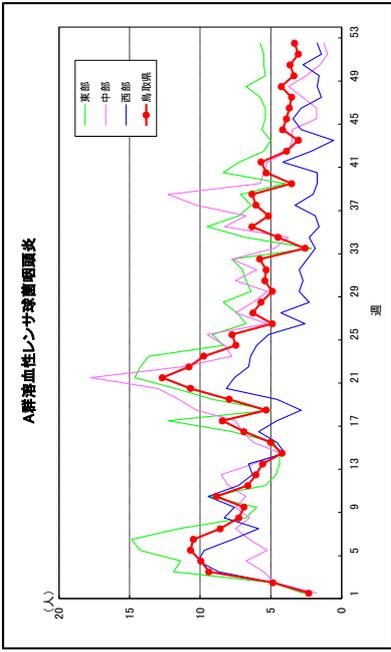
鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較



鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較

図1 令和6年定点把握感染症発生状況(疾病別:定点当たり)

地区別発生状況



年次別発生状況

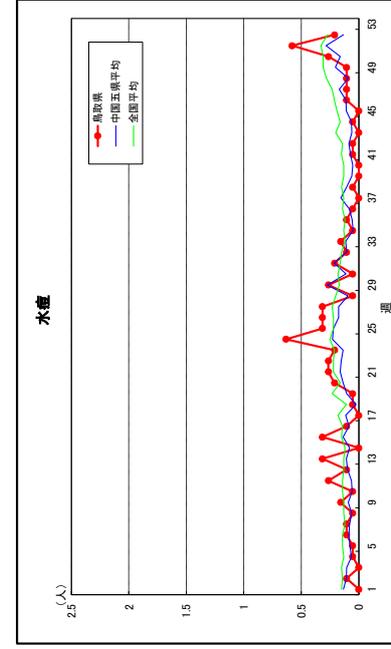
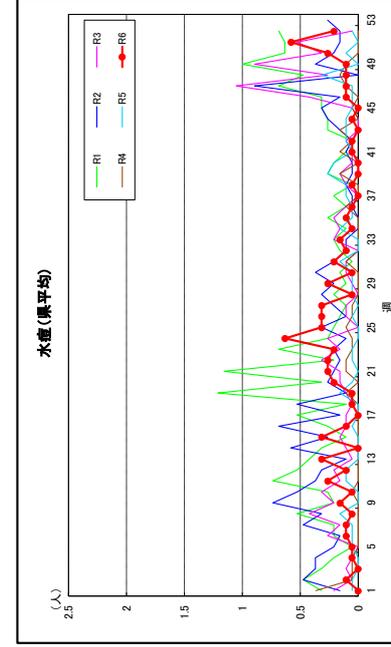
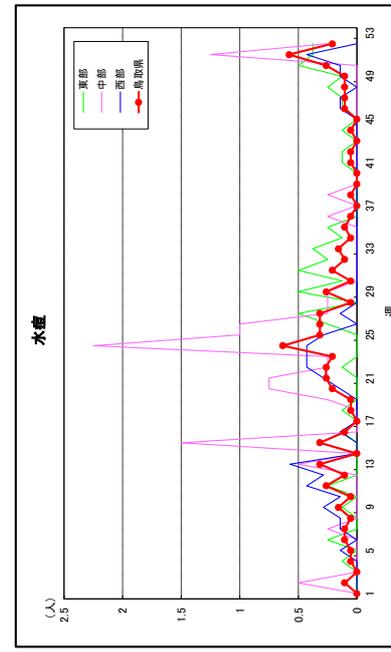
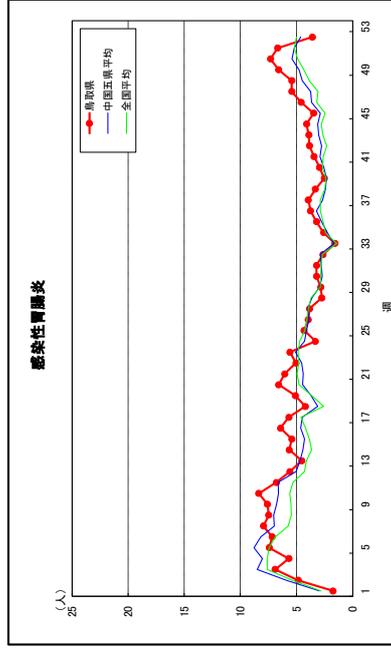
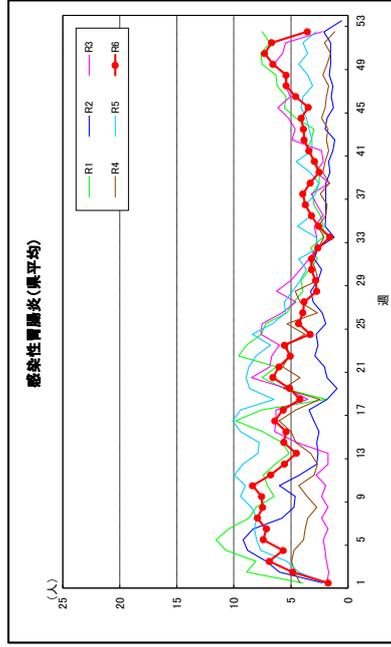
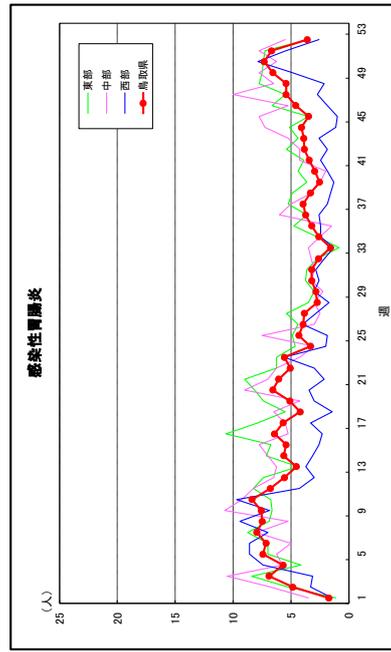
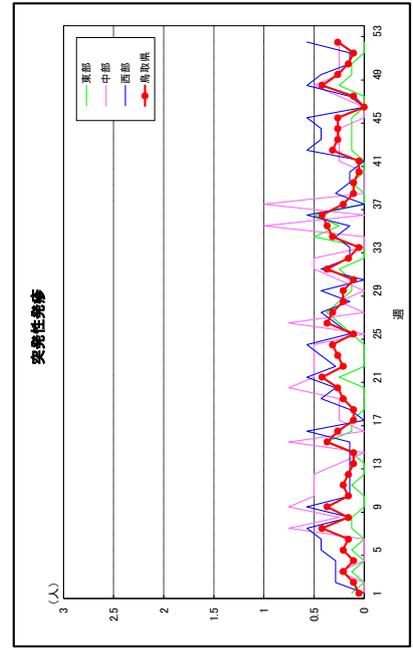
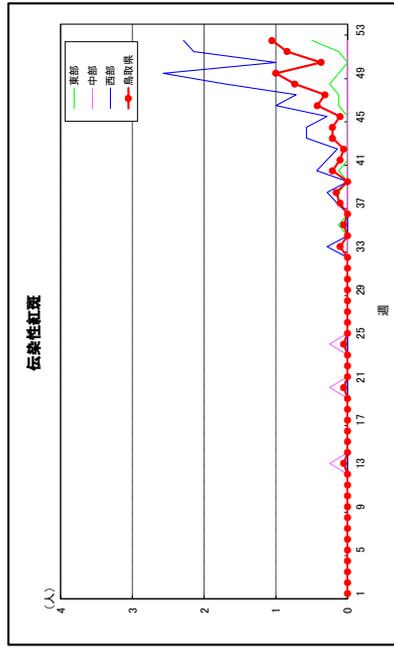
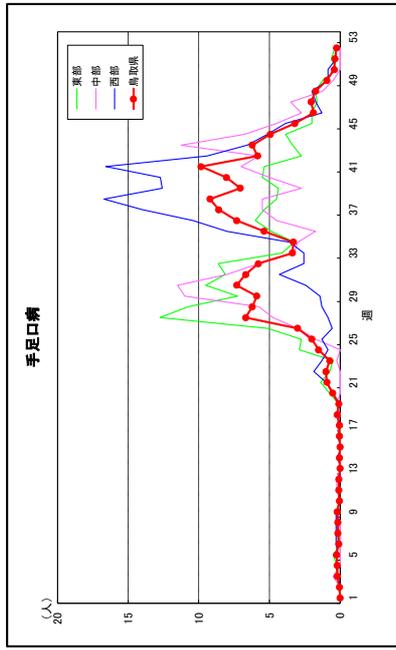
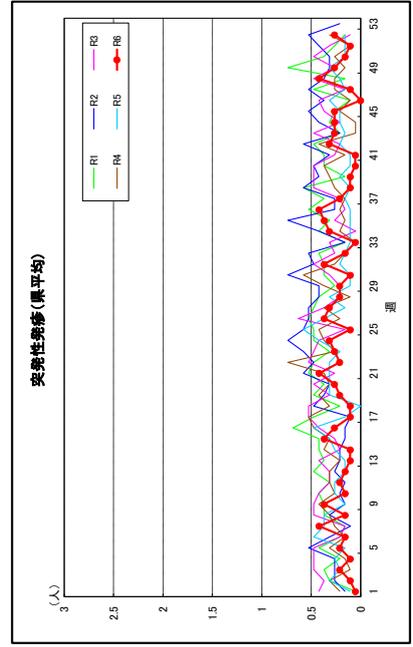
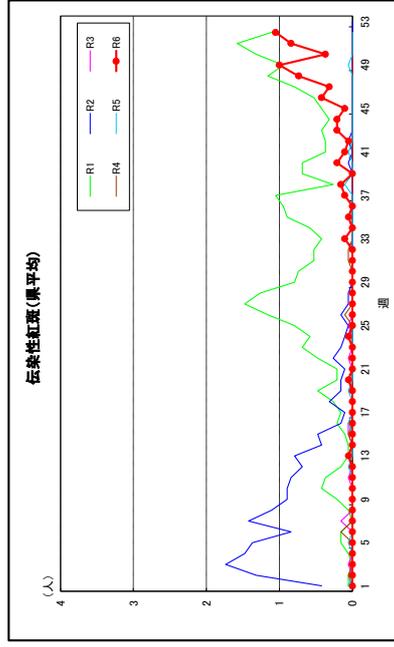
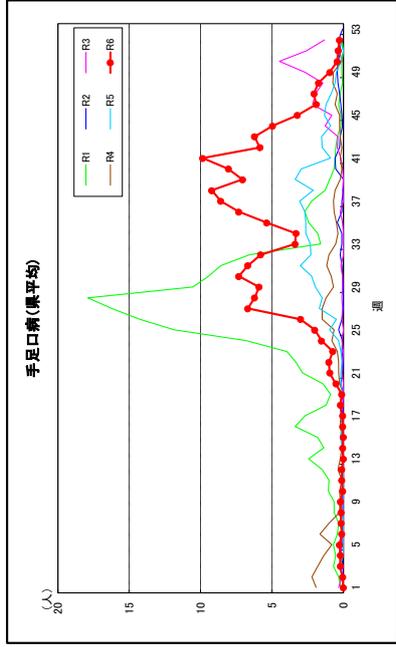


図1 令和6年定点把握感染症発生状況(疾病別: 定点当たり)

地区別発生状況



年次別発生状況



鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較

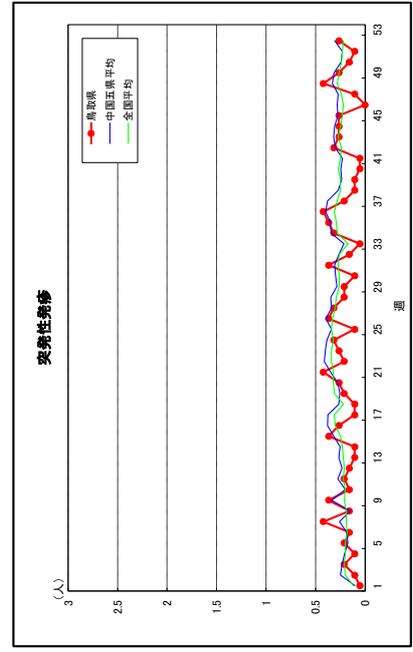
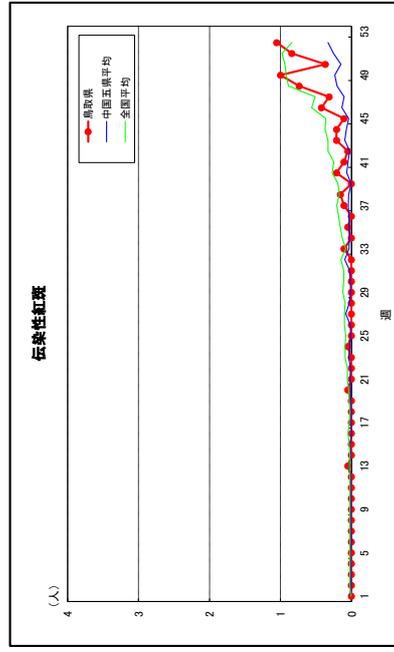
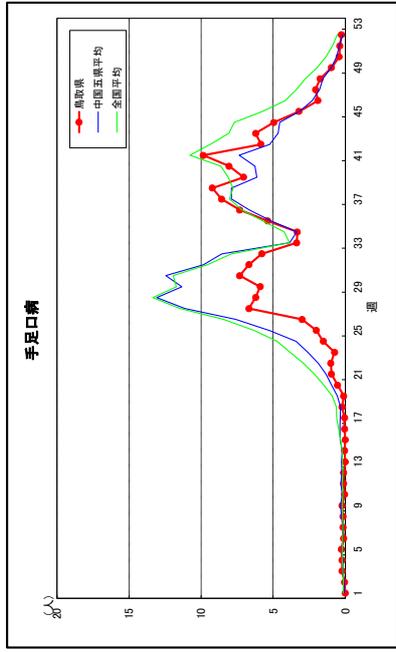
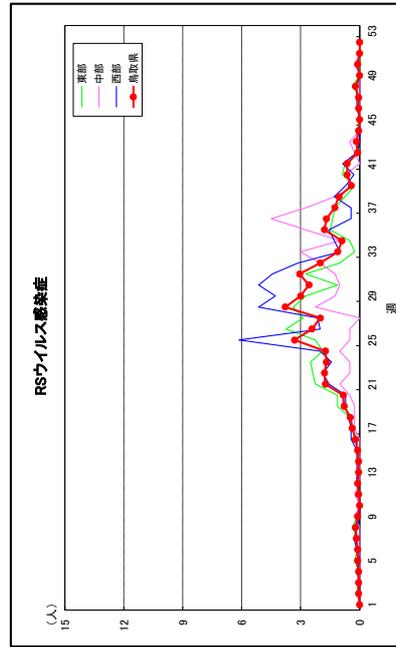
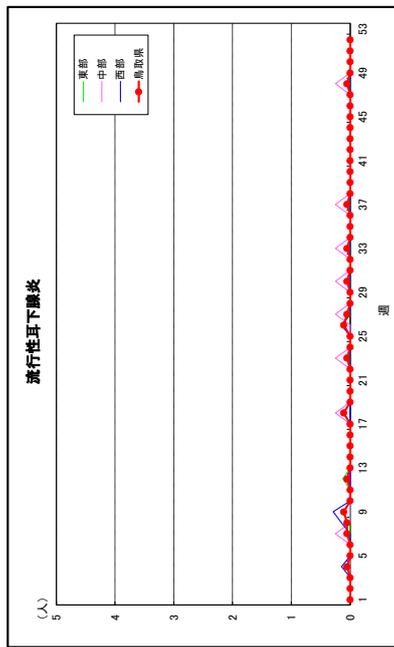
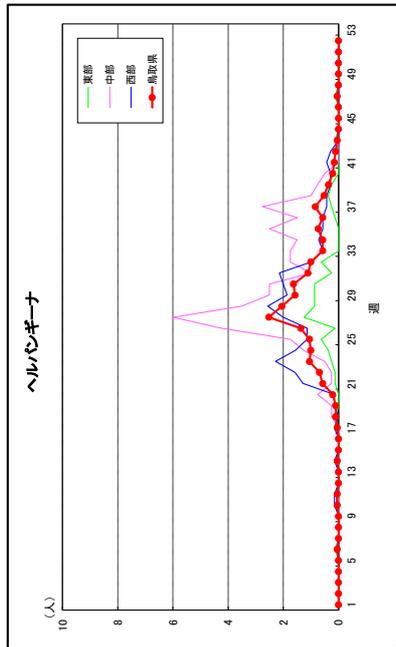
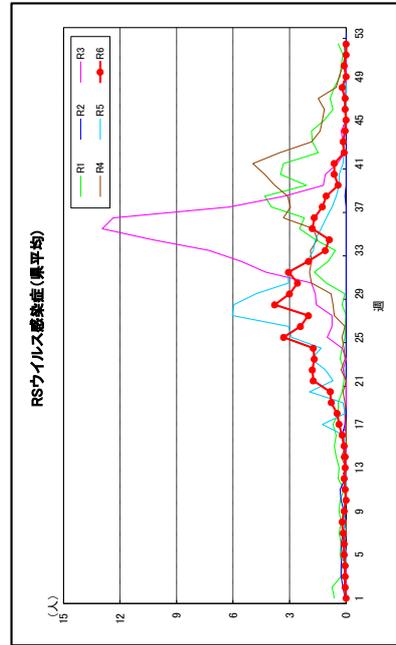
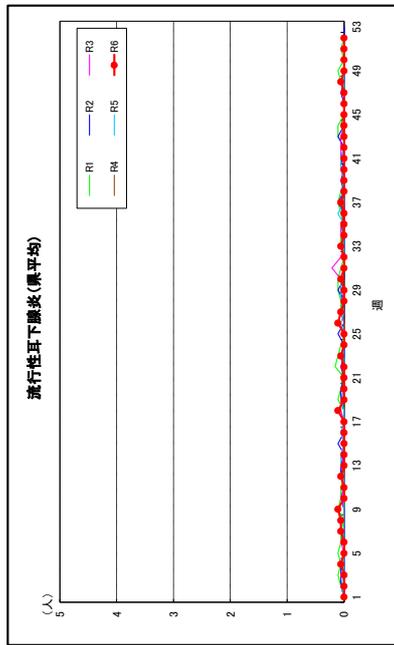
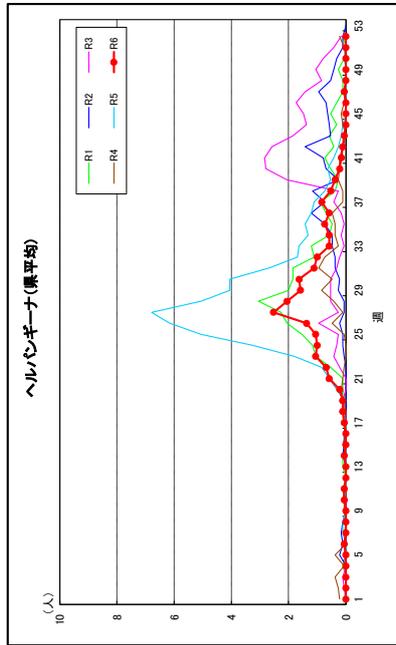


図1 令和6年定点把握感染症発生状況(疾病別：定点当たり)

地区別発生状況



年次別発生状況



鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較

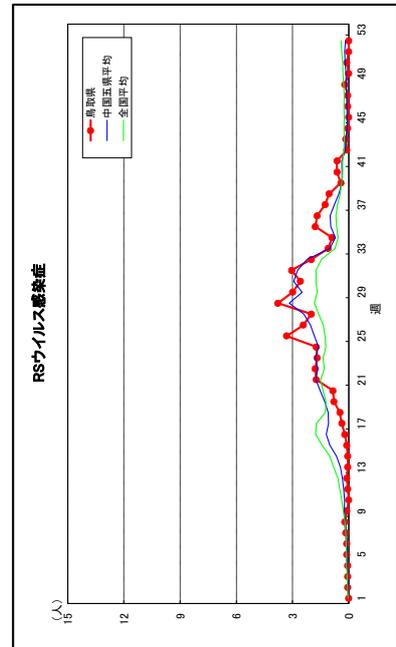
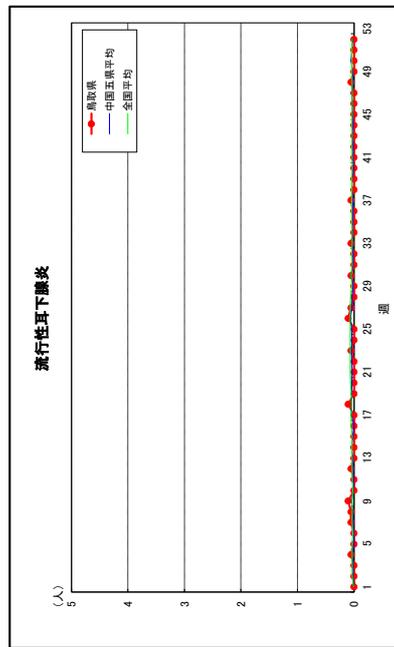
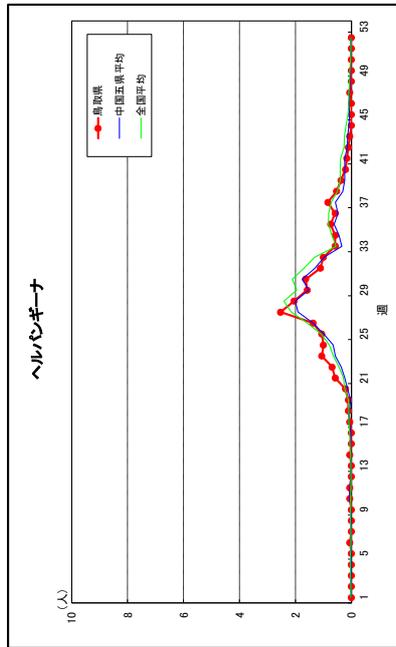
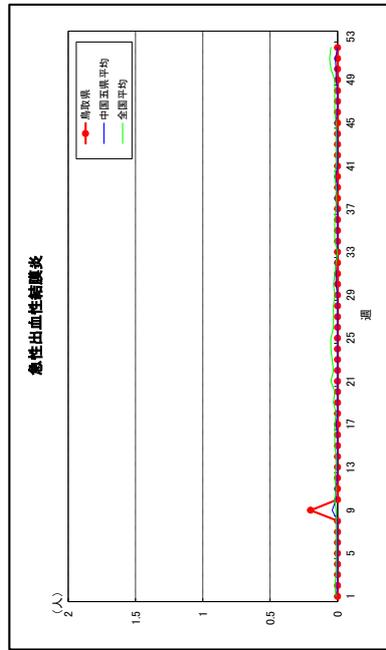
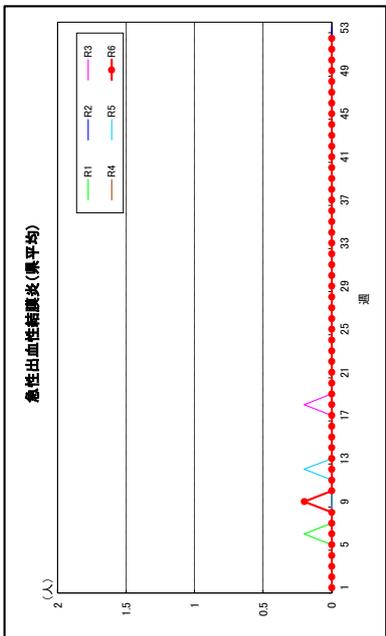
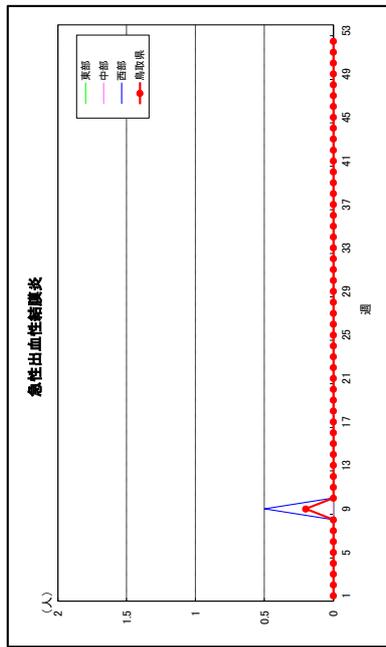
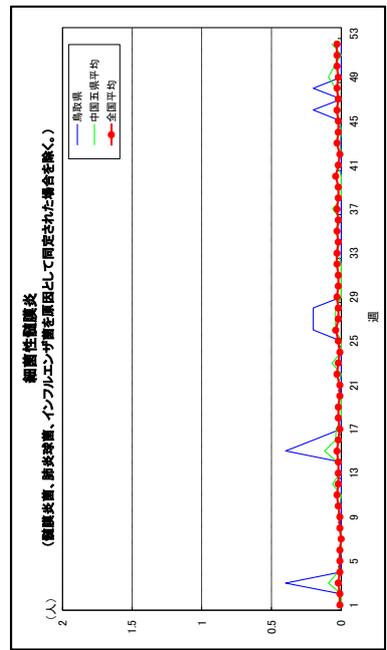
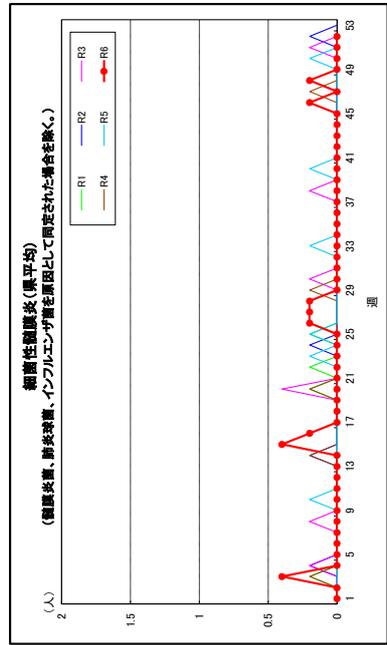
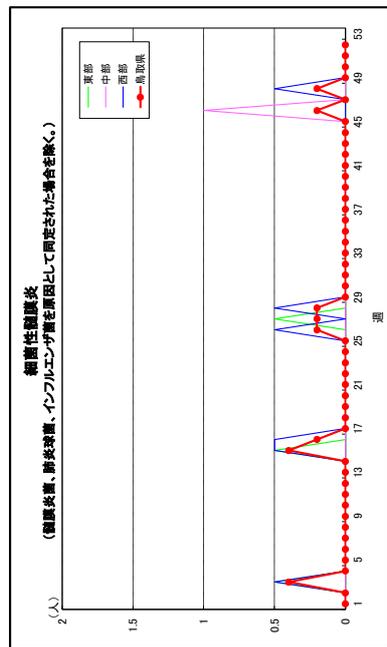
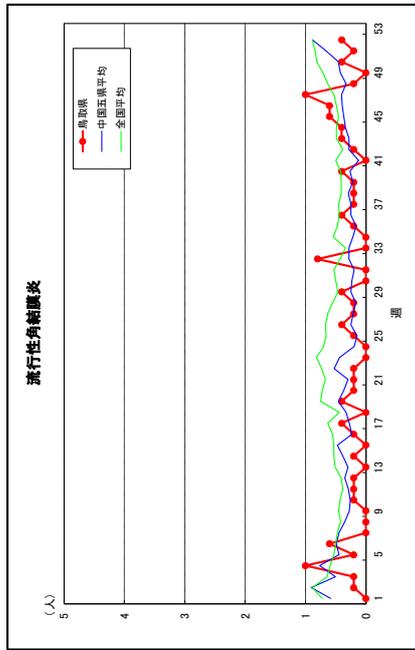
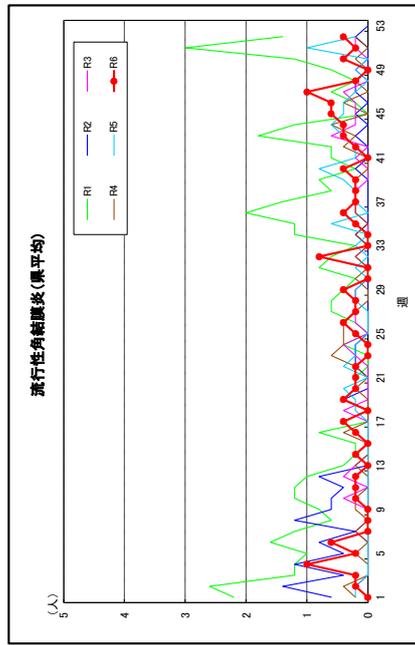
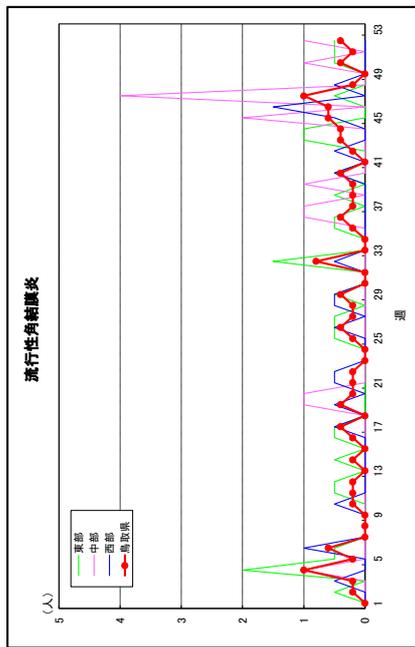


図1 令和6年定点把握感染症発生状況(疾病別:定点当たり)

地区別発生状況



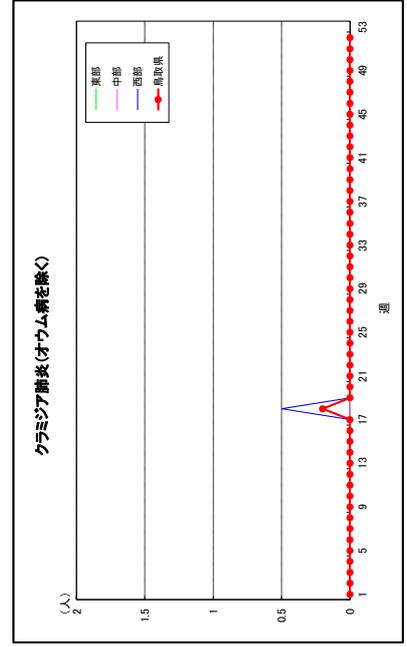
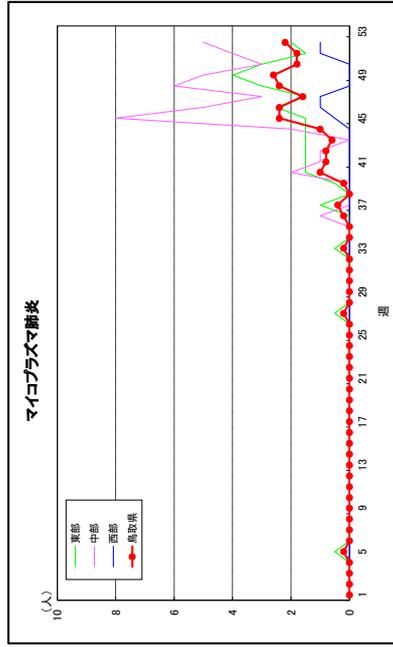
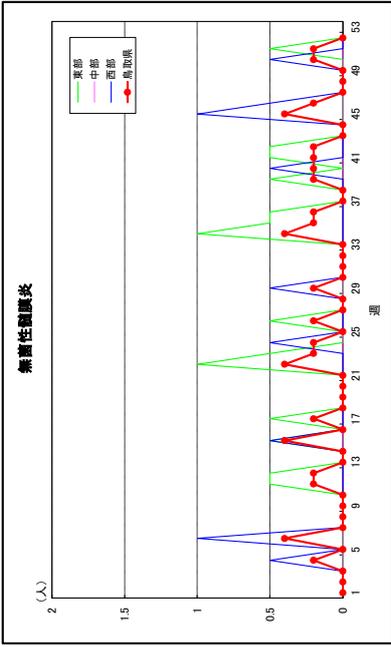
年次別発生状況



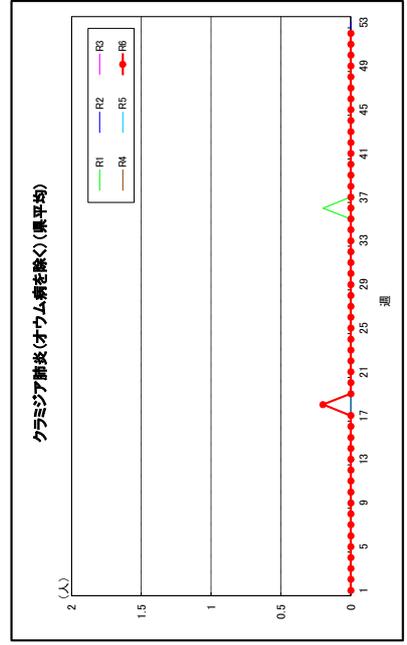
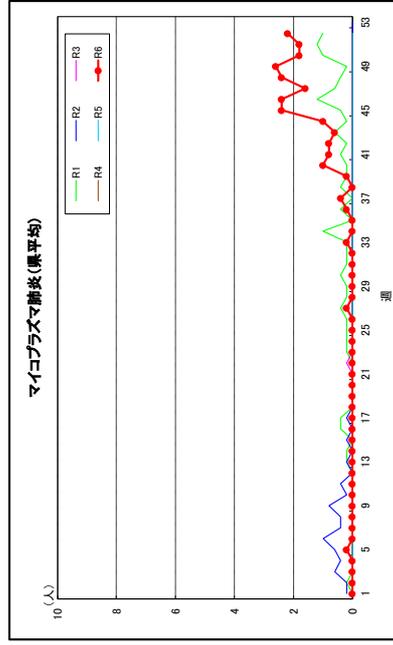
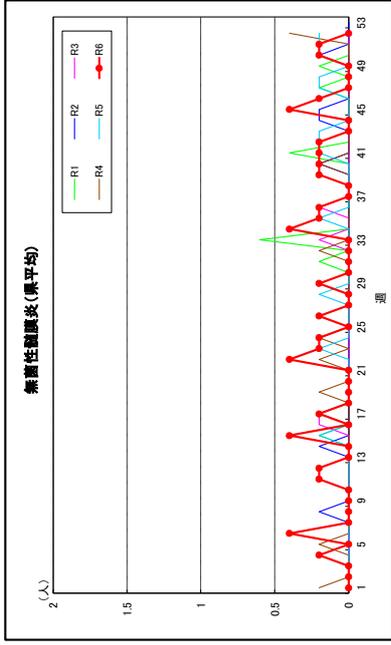
鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較

図1 令和6年定点把握感染症発生状況(疾病別:定点当たり)

地区別発生状況



年次別発生状況



鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較

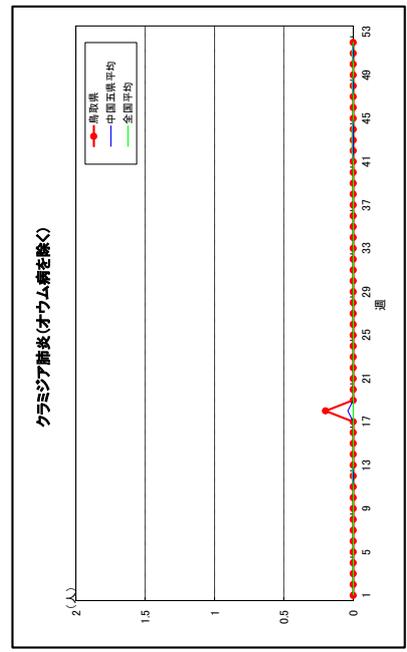
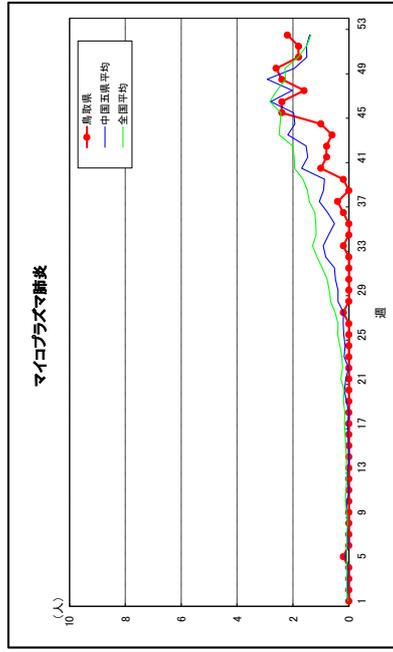
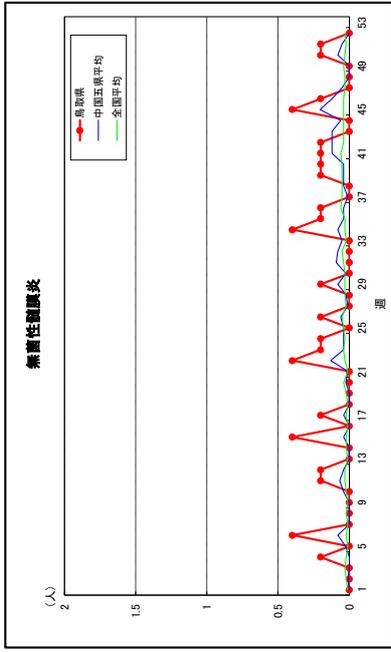
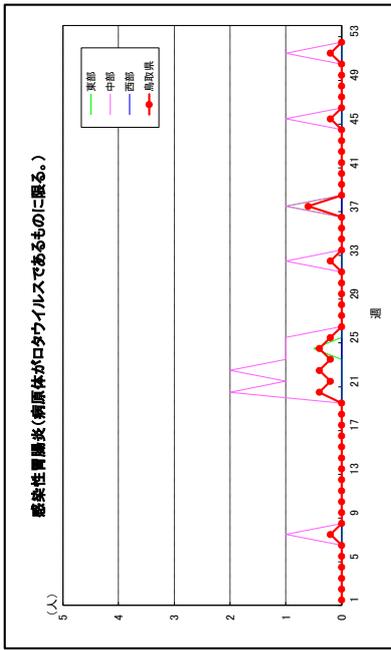
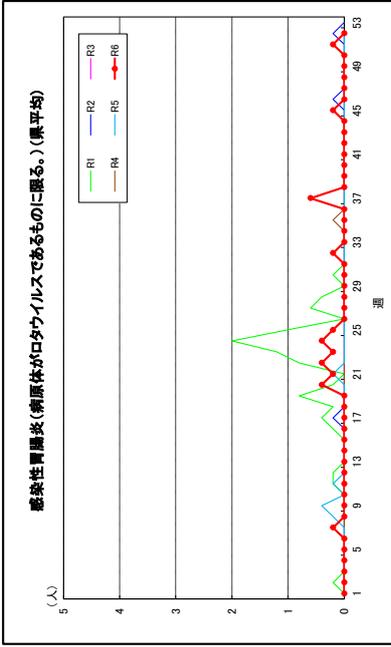


図1 令和6年定点把握感染症発生状況(疾病別:定点点たり)

地区別発生状況



年次別発生状況



鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較

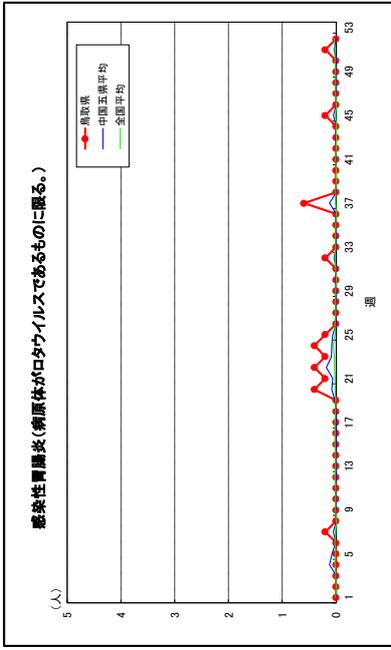


図1 令和6年定点把握感染症発生状況(疾病別:定点当たり)

イ 性感染症(STD)定点報告疾病

性感染症（STD）定点報告対象4疾病（性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ及び淋菌感染症）の患者報告数は545件であり、性器クラミジア感染症280件（対前年31件増加）、性器ヘルペスウイルス感染症137件（対前年14件増加）、尖圭コンジローマ51件（対前年2件減少）、淋菌感染症77件（対前年1件減少）であった（P17表7、P19図2-1参照）。

性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ及び淋菌感染症の地域別患者報告数はいずれも西部地区での割合が高く、性別患者報告数ではいずれも男性の割合が高かった（P17表8、P19図2-2、P20図2-3参照）。

また、年齢別患者報告数では性器クラミジア感染症は15歳から50歳代に多く、特に20歳代が最も多かった。性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ及び淋菌感染症は20歳から50歳代と幅広い年齢で多くみられた（P18表9、P20図2-4参照）。

表7 性感染症(STD)年次別発生状況(月報告)

※性感染症(STD)定点数は7定点

疾病名	月												合計	1定点当たり	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
令和元年	性器クラミジア感染症	20	19	16	13	17	30	23	25	22	24	27	21	257	36.7
	性器ヘルペスウイルス感染症	11	9	11	19	11	14	14	10	17	19	13	8	156	22.3
	尖圭コンジローマ	4	5	6	2	5	2	5	5	3	7	6	1	51	7.3
	淋菌感染症	4	4	5	2	7	5	3	10	3	5	2	5	55	7.9
令和2年	性器クラミジア感染症	29	19	26	16	19	19	15	13	22	24	14	20	236	33.7
	性器ヘルペスウイルス感染症	17	14	3	15	12	13	19	9	9	13	9	8	141	20.1
	尖圭コンジローマ	5	6	3	3	5	6	3	6	3	4	8	2	54	7.7
	淋菌感染症	8	9	8	4	4	9	11	11	4	1	3	4	76	10.9
令和3年	性器クラミジア感染症	22	25	23	25	15	21	22	21	17	24	18	20	253	36.1
	性器ヘルペスウイルス感染症	14	5	6	7	15	15	14	6	6	19	21	11	139	19.9
	尖圭コンジローマ	3	3	2	1	4	4	6	6	3	4	2	5	43	6.1
	淋菌感染症	6	3	9	5	2	1	7	9	10	5	3	4	64	9.1
令和4年	性器クラミジア感染症	20	20	13	26	21	24	15	27	27	14	26	19	252	36.0
	性器ヘルペスウイルス感染症	11	12	13	11	14	19	8	6	13	8	6	8	129	18.4
	尖圭コンジローマ	3	2	2	3	3	1	6	4	7	3	4	0	38	5.4
	淋菌感染症	3	3	12	8	5	3	12	9	8	4	13	1	81	11.6
令和5年	性器クラミジア感染症	15	20	11	28	19	19	26	25	32	16	20	18	249	35.6
	性器ヘルペスウイルス感染症	7	10	6	15	7	9	14	11	8	6	13	17	123	17.6
	尖圭コンジローマ	4	1	1	6	4	10	5	2	5	7	1	7	53	7.6
	淋菌感染症	6	3	11	8	9	7	7	5	4	6	8	4	78	11.1
令和6年	性器クラミジア感染症	15	21	37	22	21	21	33	32	20	20	23	15	280	40.0
	性器ヘルペスウイルス感染症	13	7	14	9	10	12	10	22	11	15	5	9	137	19.6
	尖圭コンジローマ	7	7	3	5	4	5	2	2	6	4	1	5	51	7.3
	淋菌感染症	8	14	3	9	9	7	9	7	3	2	2	4	77	11.0

表8 性感染症(STD)性別・地区別発生状況(月報告)

疾病名	性別			地区別			
	計	男	女	東部	中部	西部	
令和元年	性器クラミジア感染症	257	171	86	60	16	181
	性器ヘルペスウイルス感染症	156	98	58	44	6	106
	尖圭コンジローマ	51	35	16	16	3	32
	淋菌感染症	55	45	10	14	1	40
令和2年	性器クラミジア感染症	236	156	80	66	9	161
	性器ヘルペスウイルス感染症	141	87	54	33	6	102
	尖圭コンジローマ	54	29	25	11	3	40
	淋菌感染症	76	61	15	26	6	44
令和3年	性器クラミジア感染症	253	169	84	63	8	182
	性器ヘルペスウイルス感染症	139	88	51	32	5	102
	尖圭コンジローマ	43	26	17	4	3	36
	淋菌感染症	64	56	8	13	1	50
令和4年	性器クラミジア感染症	252	167	85	57	11	184
	性器ヘルペスウイルス感染症	129	78	51	46	10	73
	尖圭コンジローマ	38	26	12	12	3	23
	淋菌感染症	81	67	14	14	6	61
令和5年	性器クラミジア感染症	249	181	68	56	10	183
	性器ヘルペスウイルス感染症	123	72	51	36	10	77
	尖圭コンジローマ	53	37	16	7	8	38
	淋菌感染症	78	61	17	16	1	61
令和6年	性器クラミジア感染症	280	193	87	76	7	197
	性器ヘルペスウイルス感染症	137	87	50	31	17	89
	尖圭コンジローマ	51	39	12	11	13	27
	淋菌感染症	77	61	16	27	3	47

表9 性感染症(STD)年齢別患者報告数の分布(月報告)

疾病名		1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上
令和元年	性器クラミジア感染症	0	0	0	21	63	45	35	34	22	16	8	5	4	3	1
	性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	4	12	18	27	22	12	17	7	10	3	6	18
	尖圭コンジローマ	1	0	0	2	8	9	5	5	5	5	4	1	3	2	1
	淋菌感染症	0	0	0	2	7	14	8	9	6	3	2	2	0	2	0
令和2年	性器クラミジア感染症	0	0	0	26	47	48	29	20	22	17	11	6	6	2	2
	性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	2	17	14	23	17	13	11	13	11	4	5	11
	尖圭コンジローマ	0	0	0	1	8	8	10	8	3	1	4	5	2	2	2
	淋菌感染症	0	0	0	5	14	16	11	0	13	5	1	3	8	0	0
令和3年	性器クラミジア感染症	0	0	0	22	79	59	25	24	13	15	11	2	2	1	0
	性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	4	15	16	17	14	18	9	12	16	7	3	8
	尖圭コンジローマ	0	0	0	2	9	7	9	4	4	1	0	1	2	1	3
	淋菌感染症	0	0	0	3	12	17	10	7	9	4	0	0	2	0	0
令和4年	性器クラミジア感染症	0	0	0	22	72	53	34	25	18	8	13	5	1	1	0
	性器ヘルペスウイルス感染症	0	1	0	5	12	26	13	15	17	11	13	3	2	1	10
	尖圭コンジローマ	0	0	0	3	16	3	3	2	0	2	3	2	0	1	3
	淋菌感染症	0	0	0	7	18	19	12	10	5	5	4	0	0	1	0
令和5年	性器クラミジア感染症	0	0	0	22	65	54	33	15	22	18	5	9	4	2	0
	性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	1	4	12	16	14	11	11	11	11	12	13	2	5
	尖圭コンジローマ	0	0	0	3	7	10	8	3	5	10	1	1	1	1	3
	淋菌感染症	0	0	1	6	17	13	13	5	6	5	4	6	2	0	0
令和6年	性器クラミジア感染症	0	0	0	18	75	57	41	20	31	11	12	8	4	2	1
	性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	1	2	13	21	16	19	13	8	18	7	6	3	10
	尖圭コンジローマ	0	0	0	2	7	5	6	3	8	4	8	3	3	0	2
	淋菌感染症	0	0	0	5	14	12	7	12	9	7	5	2	3	1	0

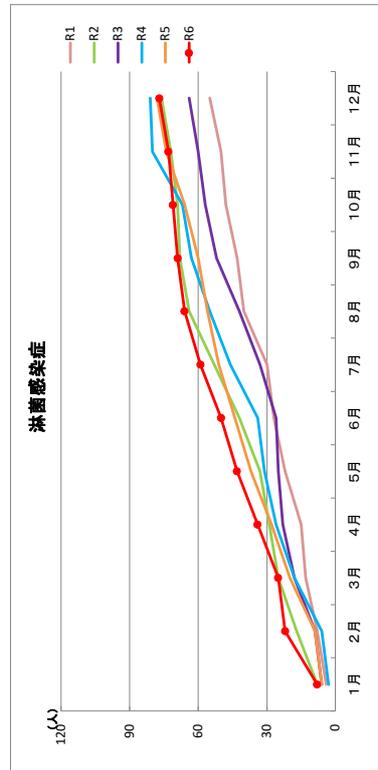
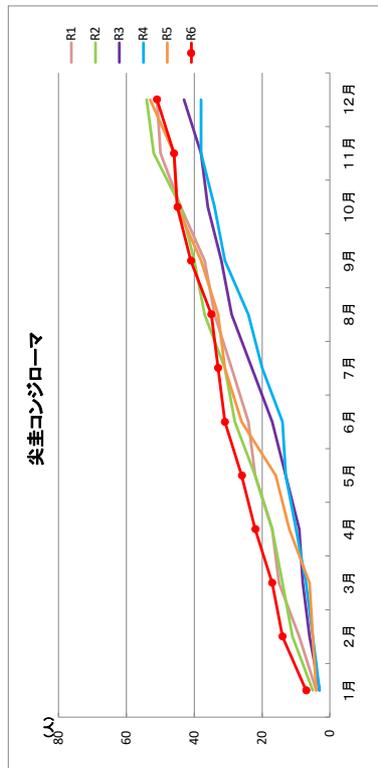
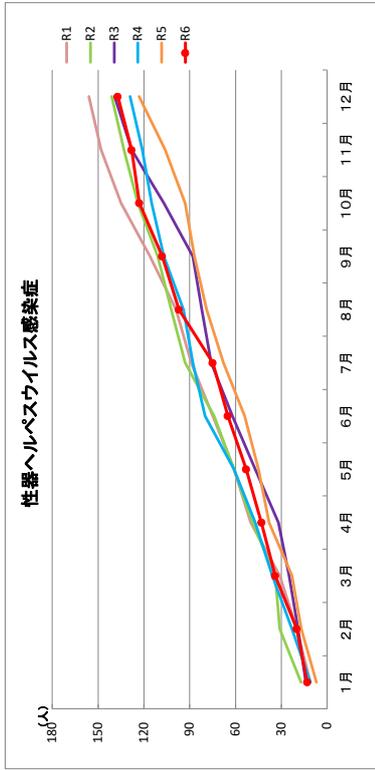
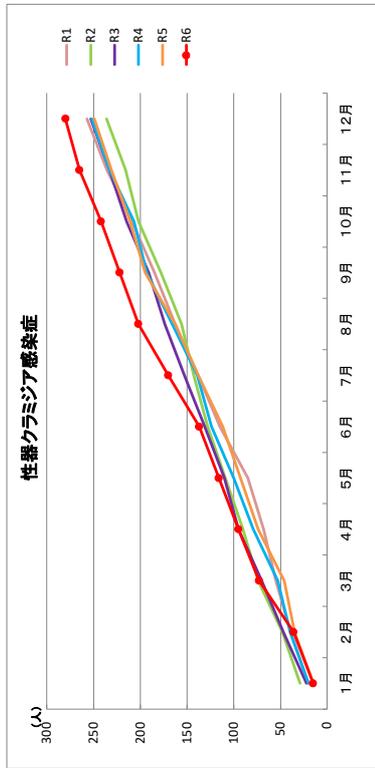


図2-1 性感染症(STD)発生状況(疾病別・累計)

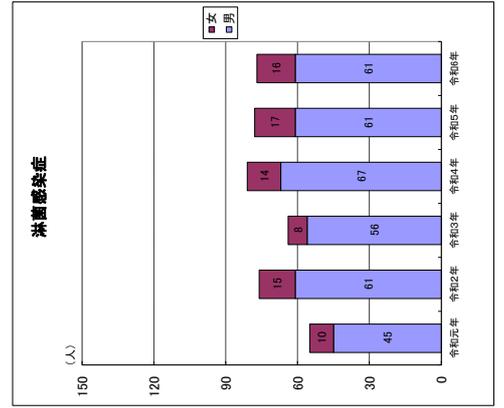
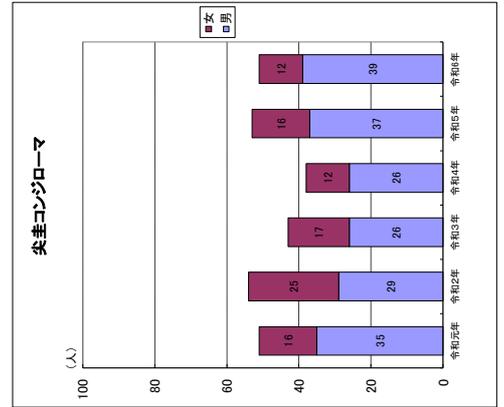
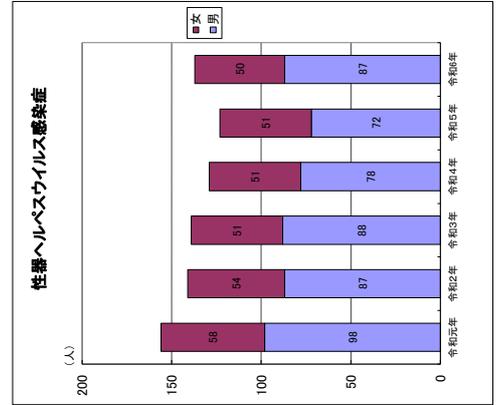
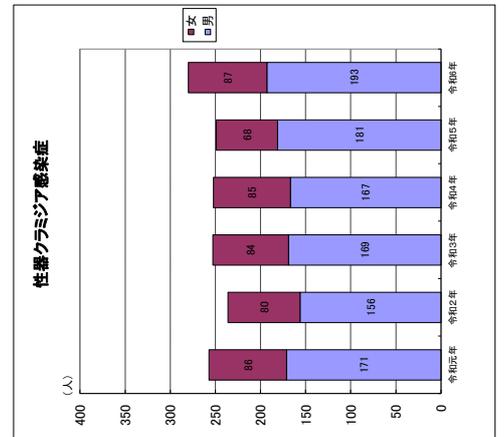


図2-2 性感染症(STD)発生状況(疾病別・性別)

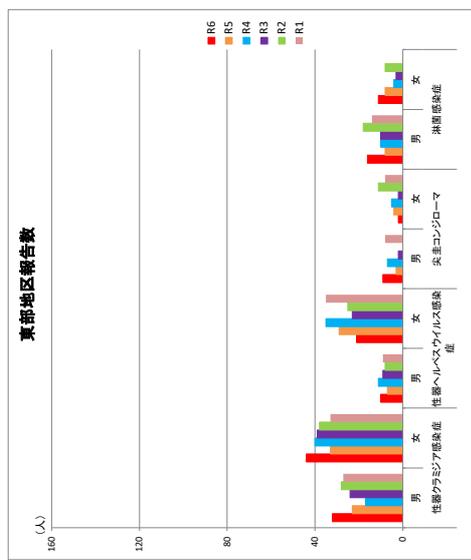
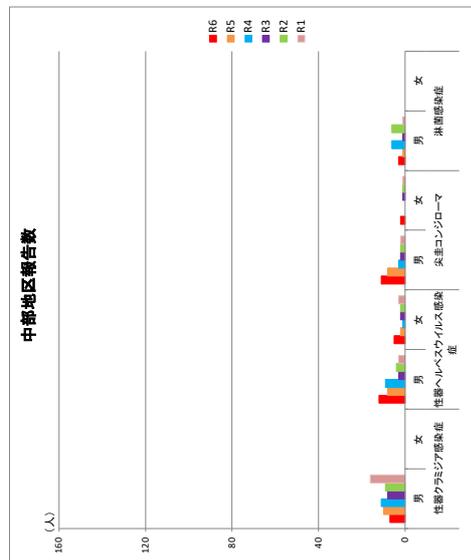
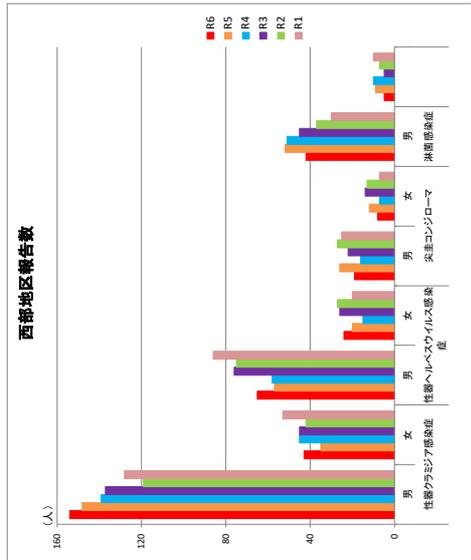


図2-3 性感染症(STD)発生状況(地区別・疾病別・性別)

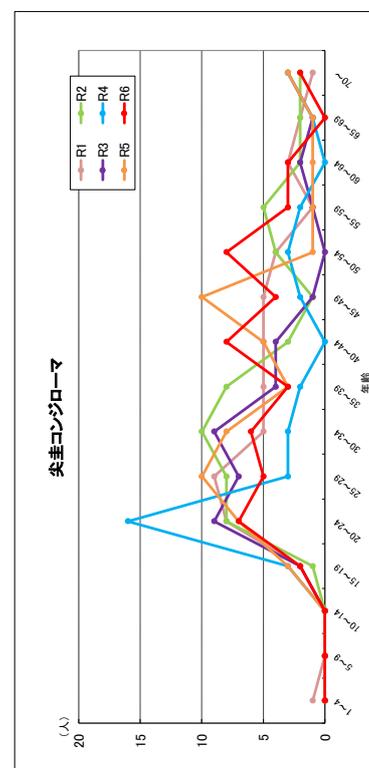
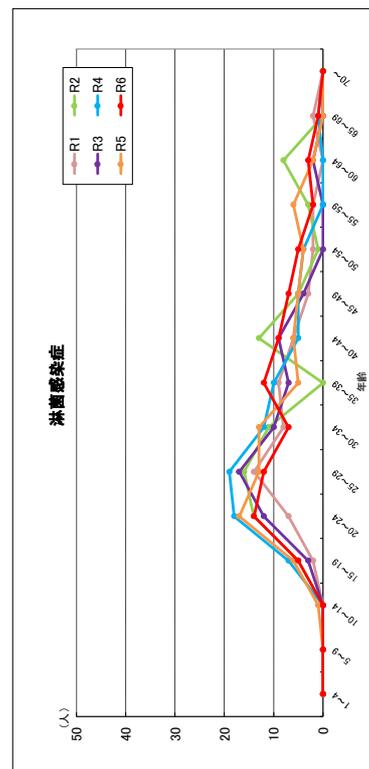
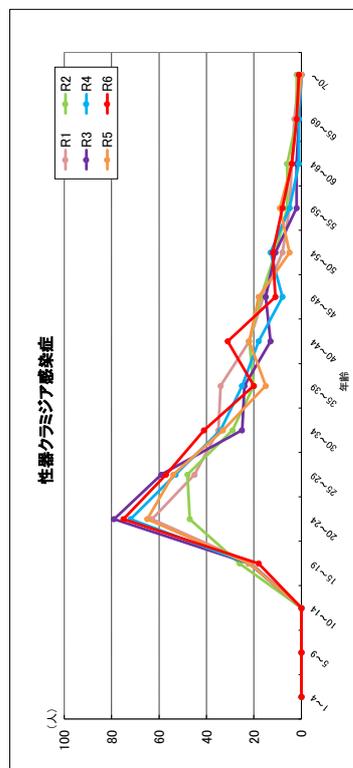
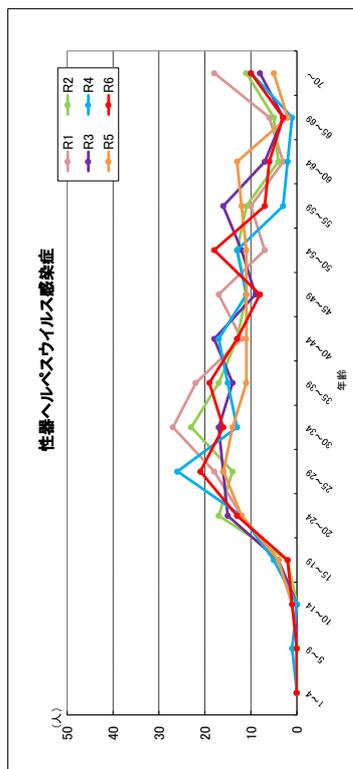


図2-4 性感染症(STD)発生状況(疾病別・年齢別)

ウ 基幹定点報告疾病

基幹定点報告対象3疾病（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症）の患者報告数は112件であり、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症103件（対前年5件減少）、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症8件（対前年2件減少）、薬剤耐性緑膿菌感染症1件（前年同数）であった（P22表10、P24図3-1参照）。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症及び薬剤耐性緑膿菌感染症の地域別患者報告数はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症及びペニシリン耐性肺炎球菌感染症で西部地区の割合が高く、性別患者報告数ではいずれも男性の割合が高かった（P22表11及びP24図3-2）。

また、年齢別患者報告数ではメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症及びペニシリン耐性肺炎球菌感染症が70歳以上の割合が高かった（P23表12、P25図3-3参照）。

表10 基幹病院年次別発生状況(月報告)

※基幹病院定点数は5定点

疾病名	月												合計	1定点当たり	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
令和元年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	13	11	18	10	11	5	9	16	5	13	7	12	130	26.0
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	2	1	2	2	2	2	1	0	1	2	3	18	3.6
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.2
令和2年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14	12	6	8	8	5	11	4	10	12	6	10	101	20.2
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	2	3	0	2	1	0	0	1	1	0	1	5	1.0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0.0
令和3年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6	6	12	6	7	8	9	6	10	13	12	6	101	20.2
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	1	5	1.0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
令和4年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5	11	11	7	7	15	4	8	8	8	9	9	102	20.4
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0	1	1	1	0	2	0	0	2	0	2	10	2.0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
令和5年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11	5	8	9	16	7	6	12	8	10	9	7	108	21.6
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	1	1	0	1	2	1	2	0	2	0	0	10	2.0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0.2
令和6年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	8	6	14	12	7	8	7	3	6	9	13	10	103	20.6
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	1	3	1	0	0	2	0	1	8	1.6
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2

表11 基幹病院性別・地区別発生状況(月報告)

疾病名	性別			地区別			
	計	男	女	東部	中部	西部	
令和元年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	130	77	53	57	22	51
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	18	11	7	0	0	18
	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	1	0	1	0	0
令和2年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	106	73	33	43	15	48
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	11	8	3	1	0	10
	薬剤耐性緑膿菌感染症	2	1	1	0	1	1
令和3年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	101	62	39	41	23	37
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	5	2	3	0	2	3
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0
令和4年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	102	64	38	35	15	52
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	10	6	4	0	0	10
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0
令和5年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	108	66	42	32	29	47
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	10	6	4	0	1	9
	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	1	0	0	0	1
令和6年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	103	68	35	28	30	45
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	8	8	0	1	0	7
	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	1	0	0	1	0

表12 基幹病院年齢別患者報告数の分布(月報告)

疾病名		0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上
令和元年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10	3	0	1	0	0	4	0	5	0	4	8	5	11	79
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3	3	5
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
令和2年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4	0	0	1	1	1	1	1	1	0	4	4	9	5	74
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	7
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
令和3年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3	0	0	0	0	0	0	2	1	1	4	3	5	8	74
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和4年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2	0	0	2	0	3	1	3	0	0	2	4	9	10	66
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	7
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和5年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	0	0	1	0	2	0	1	3	1	2	2	5	8	82
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	5
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
令和6年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3	1	1	1	1	1	0	0	3	4	5	3	6	5	69
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	5
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

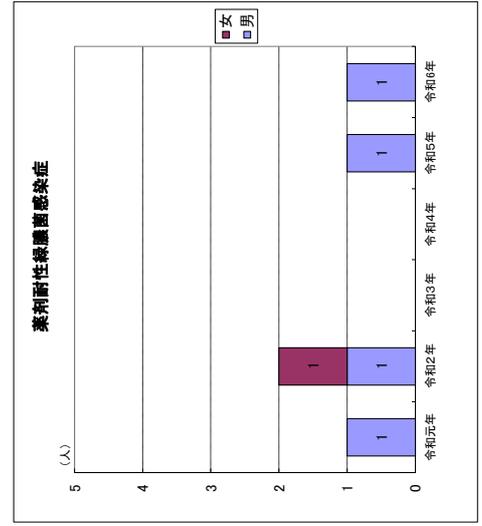
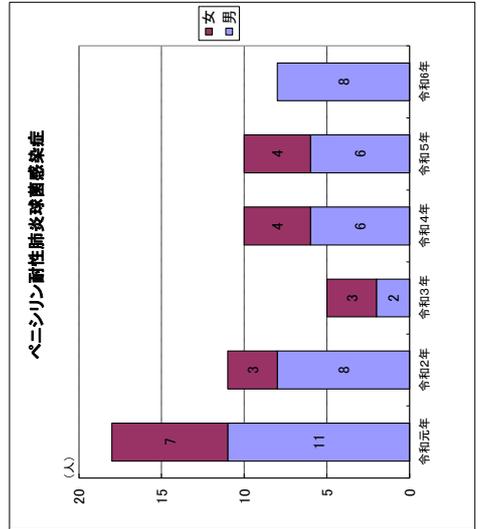
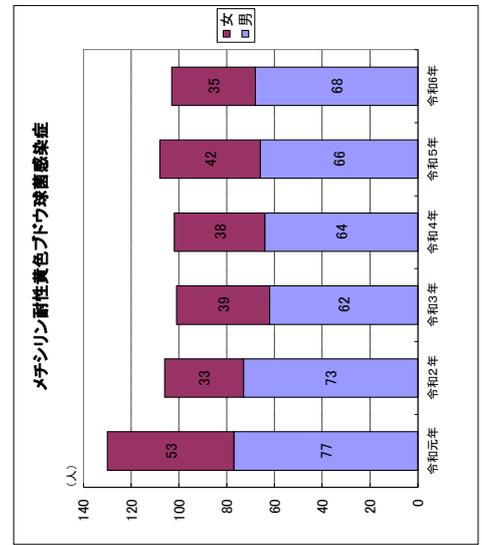
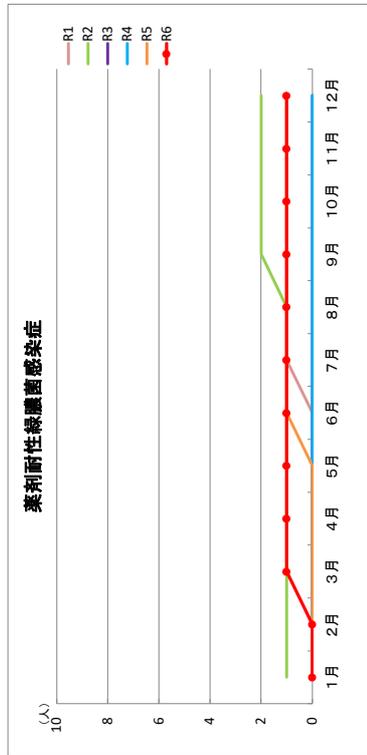
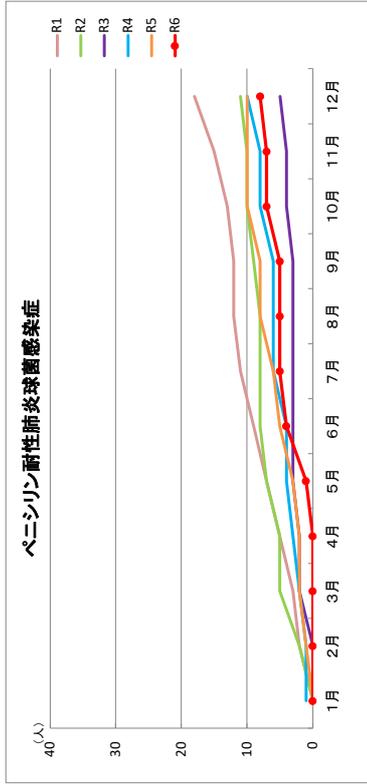
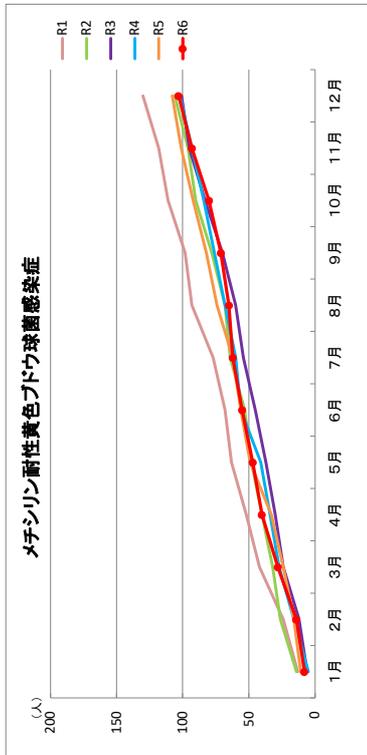


図3-1 基幹病院発生状況(疾病別:累計)

図3-2 基幹病院発生状況(疾病別:性別)

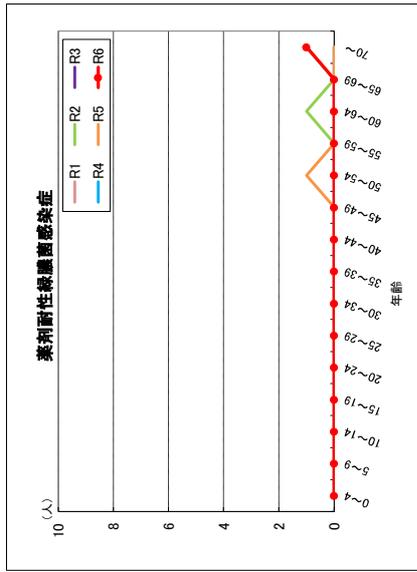
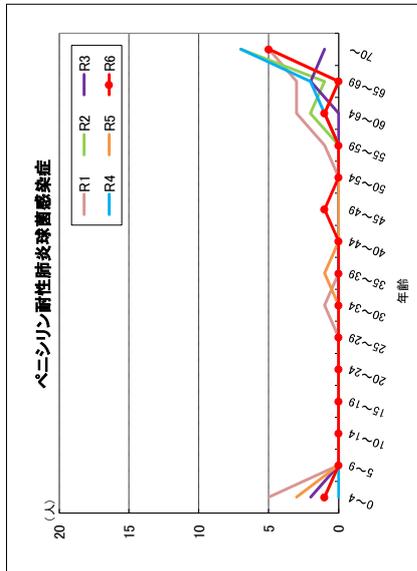
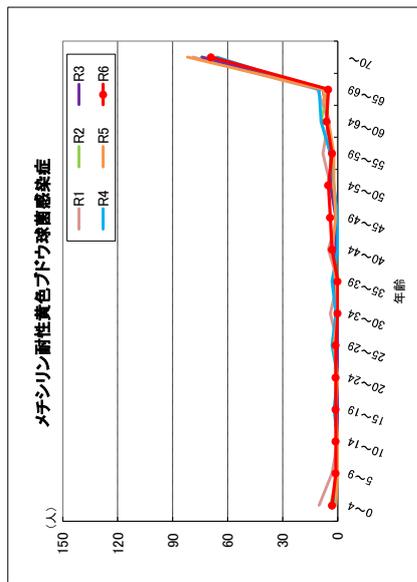


図3-3 基幹病院発生状況(疾病別:年齢別)

(2) インフルエンザ及び感染性胃腸炎の発生状況(表13、図4参照)

令和6年シーズン(令和6年6月下旬～令和7年6月下旬)の特徴。

インフルエンザは、11月下旬から患者報告数が増加し、1月上旬に流行のピークとなった。患者報告数は令和5年シーズンに比べ大幅に少なかった。

感染性胃腸炎は、4月から6月にかけては例年に比べ多い患者報告数であったが、シーズンを通して大きな流行は無かった。

表13 インフルエンザ及び感染性胃腸炎の発生状況

インフルエンザ(単位:人)					感染性胃腸炎(単位:人)				
	東部	中部	西部	県計		東部	中部	西部	県計
令和元年シーズン	1,929	1,356	1,640	4,925	令和元年シーズン	1,734	1,122	1,261	4,117
令和2年シーズン	0	0	5	5	令和2年シーズン	1,087	622	1,218	2,927
令和3年シーズン	0	0	3	3	令和3年シーズン	1,727	1,120	1,310	4,157
令和4年シーズン	817	314	731	1,862	令和4年シーズン	2,258	1,319	1,335	4,912
令和5年シーズン	4,758	4,217	5,198	14,173	令和5年シーズン	2,115	1,225	1,332	4,672
令和6年シーズン	2,446	2,392	2,663	7,501	令和6年シーズン	2,272	1,290	1,384	4,946
6年シーズン平均	1,658	1,380	1,707	4,745	6年シーズン平均	1,866	1,116	1,307	4,289

※当年6月下旬～翌年6月下旬

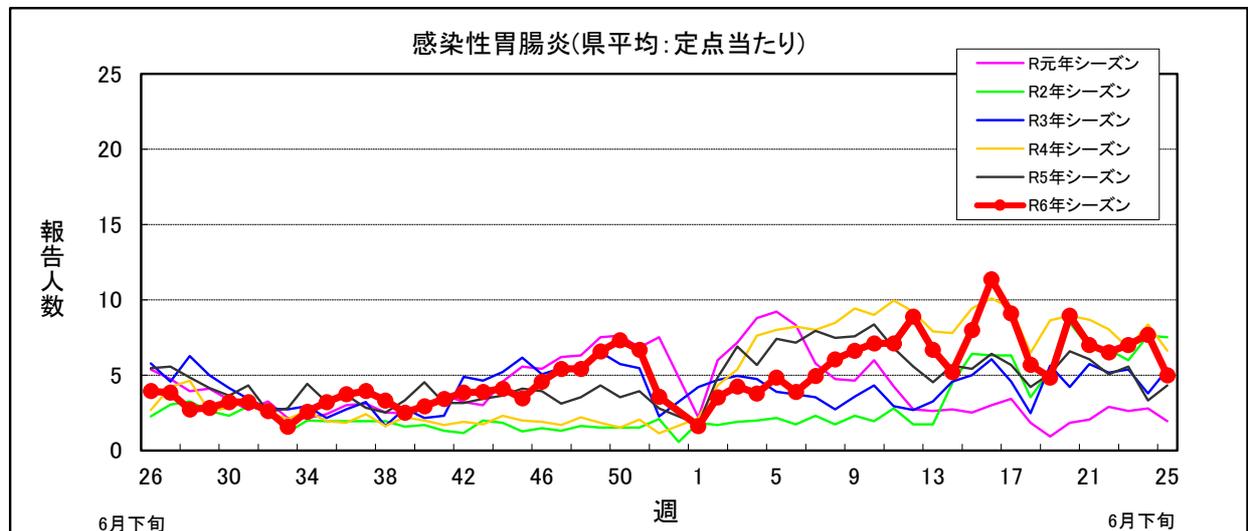
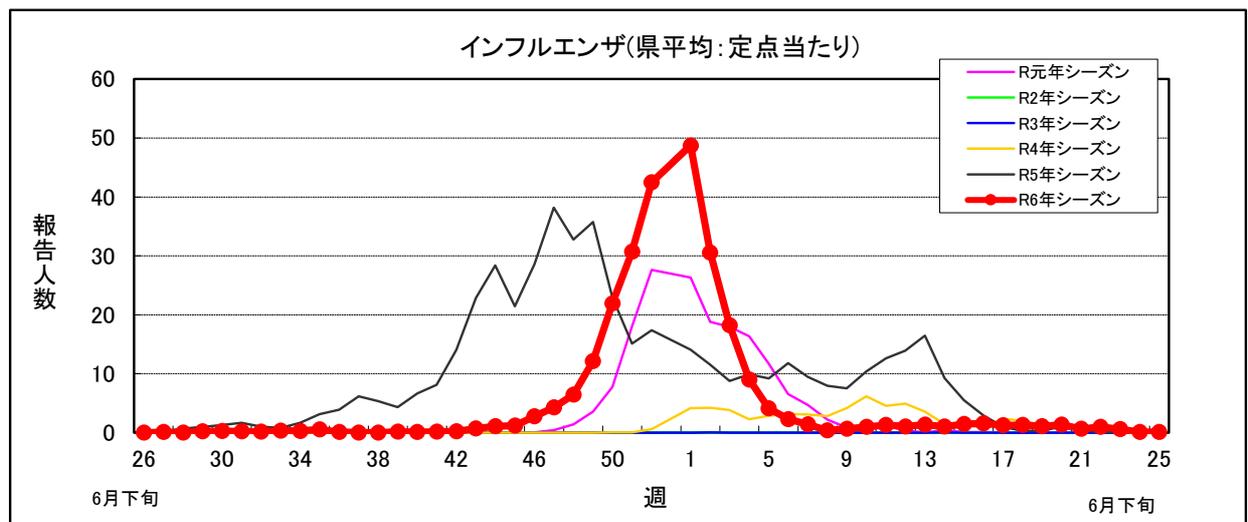


図4 インフルエンザ及び感染性胃腸炎の発生状況

2 全数把握对象疾患

(1) 令和6年の発生状況(P29～30 表 14 参照)

ア 1 類感染症

鳥取県、全国ともに発生はなかった。

イ 2 類感染症

鳥取県では、結核 50 件の報告があった。
全国では、結核 16,240 件の報告があった。

ウ 3 類感染症

鳥取県では、腸管出血性大腸菌感染症 21 件の報告があった。
全国では、腸管出血性大腸菌感染症 3,748 件、細菌性赤痢 74 件、腸チフス 42 件、パラチフス 7 件及びコレラ 2 件の報告があった。

エ 4 類感染症

鳥取県では、レジオネラ症 9 件、日本紅斑熱 8 件、A 型肝炎 2 件、重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。）2 件、つつが虫病 1 件の報告があった。
全国では、レジオネラ症 2,428 件、E 型肝炎 527 件、日本紅斑熱 523 件、つつが虫病 354 件、デング熱 230 件、A 型肝炎 137 件、重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。）122 件、レプトスピラ症 53 件及びマラリア 44 件等の報告があった。

オ 5 類感染症

鳥取県では、百日咳 383 件、梅毒 41 件、侵襲性肺炎球菌感染症 13 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 11 件、急性脳炎（ウエストナイル脳炎等を除く。）6 件、アメーバ赤痢 5 件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 4 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 3 件、水痘（入院例に限る。）2 件、ウイルス性肝炎（E 型肝炎及び A 型肝炎を除く）1 件、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 件、後天性免疫不全症候群 1 件、播種性クリプトコックス症 1 件及び破傷風 1 件の報告があった。
全国では、梅毒 14,829 件、百日咳 4,080 件、侵襲性肺炎球菌感染症 2,553 件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 2,293 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1,893 件、後天性免疫不全症候群 1,006 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 651 件、急性脳炎（ウエストナイル脳炎等を除く。）633 件、アメーバ赤痢 523 件、水痘（入院例に限る。）486 件、ウイルス性肝炎（E 型肝炎及び A 型肝炎を除く）228 件、播種性クリプトコックス症 190 件、クロイツフェルト・ヤコブ病 174 件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 124 件及び破傷風 86 件等の報告があった。

表14 全数把握対象疾患(年次別/月別報告)

		令和元年		令和2年		令和3年		令和4年		令和5年		令和6年														
		全国	鳥取県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月											
1類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	痘 そ う	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	南米出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ベ ス ト	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ラ ッ サ 熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	結 核	21,672	52	17,786	42	16,299	51	14,798	58	15,377	42	16,240	50	3	2	5	6	3	6	1	7	5	2	5	5	
	ジ フ テ リ ア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナ ウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナ ウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3類感染症	コ レ ラ	5	-	1	-	-	-	1	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	細菌性赤痢	140	-	87	-	7	-	16	-	47	-	74	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	腸管出血性大腸菌感染症	3,744	24	3,094	26	3,243	10	3,370	14	3,826	19	3,748	21	-	1	1	-	5	2	1	3	1	3	3	1	
	腸チフス	37	-	21	-	4	-	16	-	39	-	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	パラチフス	21	-	7	-	-	-	10	-	9	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4類感染症	E型肝炎	493	2	454	1	460	-	435	-	552	1	527	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎含む)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	A型肝炎	425	-	120	1	71	-	69	-	56	-	137	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	
	エキノコックス症	28	-	24	-	35	-	28	-	14	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	エムボックス	-	-	-	-	-	-	7	-	225	-	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	黄 熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	オウム病	13	-	7	-	9	-	12	-	8	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	オムスク出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	回 帰 熱	7	-	15	-	10	-	25	-	23	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	キャサナル森林病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Q 熱	2	-	-	-	1	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	狂 犬 病	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	コクシジオイデス症	2	-	6	-	-	-	2	-	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ジカウイルス感染症	3	-	1	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウイルス属SFTSウイルス であるものに限る。)	101	-	78	2	110	1	118	1	134	2	122	2	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	
	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭 疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	チクングニア熱	49	-	3	-	-	-	5	-	7	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	つ っ が 虫 病	404	3	538	3	544	4	492	2	445	1	354	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
	デ ン グ 熱	461	2	45	-	8	-	98	-	175	1	230	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東 部 ウ マ 脳 炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鳥インフルエンザ(鳥インフルエンザ (H5N1及びH7N9)を除く。)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ニバウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
日 本 紅 斑 熱	318	-	422	10	490	9	457	9	500	3	523	8	-	-	-	-	1	-	1	2	2	2	-	-		
日 本 脳 炎	9	-	5	-	3	-	5	-	6	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

表14 全数把握対象疾患(年次別/月別報告)

		令和元年		令和2年		令和3年		令和4年		令和5年		令和6年													
		全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
4 類 感 染 症	B ウ イ ル ス 病	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鼻 疔	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ブ ル セ ラ 症	2	-	2	-	1	-	1	-	2	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	発 し ん チ フ ス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ポ ツ リ ヌ ス 症	3	-	4	-	5	-	1	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	マ ラ リ ア	57	1	21	-	30	-	31	1	36	-	44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	野 兎 病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ラ イ ム 病	17	-	27	-	23	-	14	-	28	-	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	類 鼻 疔	2	-	1	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	レ ジ オ ネ ラ 症	2,316	10	2,059	12	2,133	3	2,143	13	2,291	11	2,428	9	-	-	-	-	2	1	1	-	1	1	2	1
	レプトスピラ症	32	-	17	-	34	-	38	-	49	-	53	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ロッキーマウンテン山紅斑熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 類 感 染 症	ア メ ー バ 赤 痢	853	6	611	4	537	1	533	1	489	3	523	5	-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	2	-
	ウ イ ル ス 性 肝 炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く)	331	1	246	1	203	1	211	-	244	1	228	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2,333	27	1,956	7	2,066	6	2,015	3	2,113	8	2,293	4	-	-	-	1	2	-	-	-	1	-	-	-
	急性弛緩性麻痺 (急性灰白髄炎を除く。)	78	-	34	-	25	-	41	-	55	1	48	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	959	8	491	8	338	8	399	3	661	4	633	6	1	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	3
	クリプトスポリジウム症	19	-	6	-	5	-	7	-	16	1	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	クロイツフェルト・ヤコブ病	193	2	157	-	179	-	172	-	170	-	174	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	894	6	718	5	622	3	708	3	939	6	1,893	11	3	-	-	2	1	-	-	1	-	3	1	-
	後天性免疫不全症候群	1,231	4	1,094	-	1,053	2	893	1	948	3	1,006	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	ジ アル ジ ア 症	53	1	28	-	32	1	32	1	39	-	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	543	2	253	-	194	-	211	3	566	3	651	3	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-
	侵襲性髄膜炎菌感染症	48	-	14	1	1	-	8	-	21	-	66	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	侵襲性肺炎球菌感染症	3,344	21	1,655	12	1,405	8	1,347	10	1,987	8	2,553	13	1	-	2	3	3	-	-	1	-	1	1	1
	水痘(入院例に限る。)	492	2	362	7	301	2	327	1	405	1	486	2	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
	先天性風しん症候群	4	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	梅毒	6,642	24	5,867	32	7,978	15	13,221	16	15,055	29	14,829	41	2	5	1	2	2	5	7	6	2	5	2	2
	播種性クリプトコックス症	156	2	152	3	163	1	159	2	173	2	190	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	破 傷 風	126	2	104	-	93	-	96	-	109	-	86	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	80	-	136	-	124	-	133	-	115	-	124	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	百 日 咳	16,845	47	2,819	12	707	2	491	3	1,000	3	4,080	383	5	6	2	1	1	7	37	55	54	113	59	43
	風 し ん	2,298	1	101	-	12	-	15	-	12	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	麻 し ん	744	3	10	-	6	-	6	-	28	1	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
薬剤耐性アシネトバクター感染症	24	-	10	1	6	1	13	-	15	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
新 型 イ ン フ ル エ ン ザ 等 感 染 症	新 型 イ ン フ ル エ ン ザ	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	再 興 型 イ ン フ ル エ ン ザ	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症	/	/	/	/	1,492,874	1,550	27,439,049	110,425	4,571,207	31,877	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	再 興 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
感 染 症			234,109	119	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	

※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の全数把握対象による報告数については、令和5年5月7日までの届け出分である。

※新型コロナウイルス感染症の全国値については、厚生労働省のオープンデータにより集計した(令和5年5月8日公表分まで)。

(2) 百日咳の発生状況

令和2年以降新型コロナウイルス感染症の流行により手洗い、換気など感染症対策が徹底され、百日咳の流行は激減していたが、令和6年になって381件に急増した(図5参照)。

地区別では、平成30年から令和元年も東部地区の方が多かったが、令和6年ではその傾向が顕著で全体の84.5%(322/381)を東部地区が占めた。

月別では、7月以降東部地区を中心に増加が目立ったが、年末になって西部でも増加がみられた。

年齢別では、平成30年から令和元年の頃は10歳未満の方が10代よりやや多かったが、令和6年では10歳未満に比べて10代の感染が目立ち、全体の64.0%(244/381)を占めた。

全国の累積患者数と比較してみると、鳥取県は全国で2番目に多く、流行は全国的にみても大規模であった(P32図6参照)。

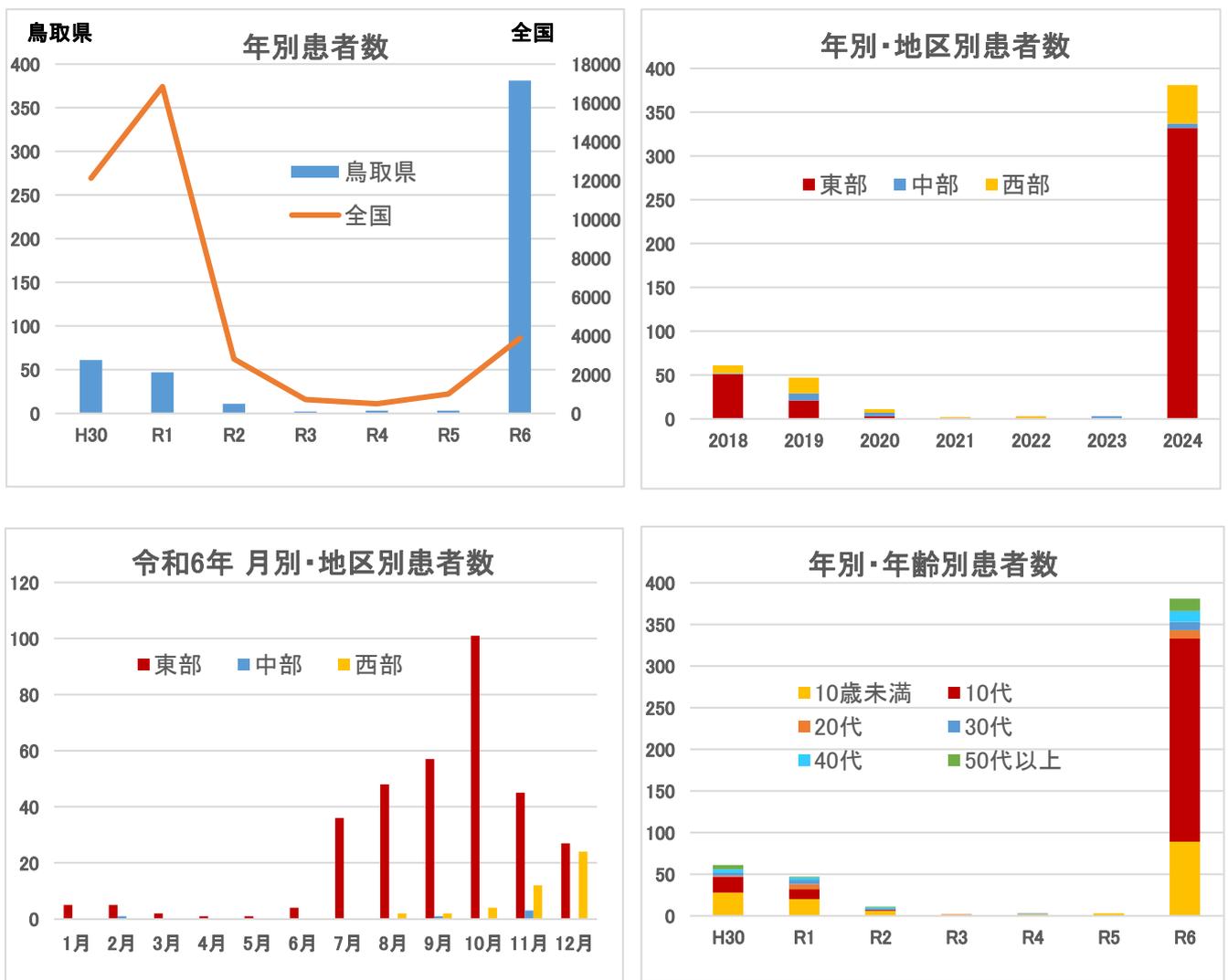


図5 鳥取県における百日咳発生状況

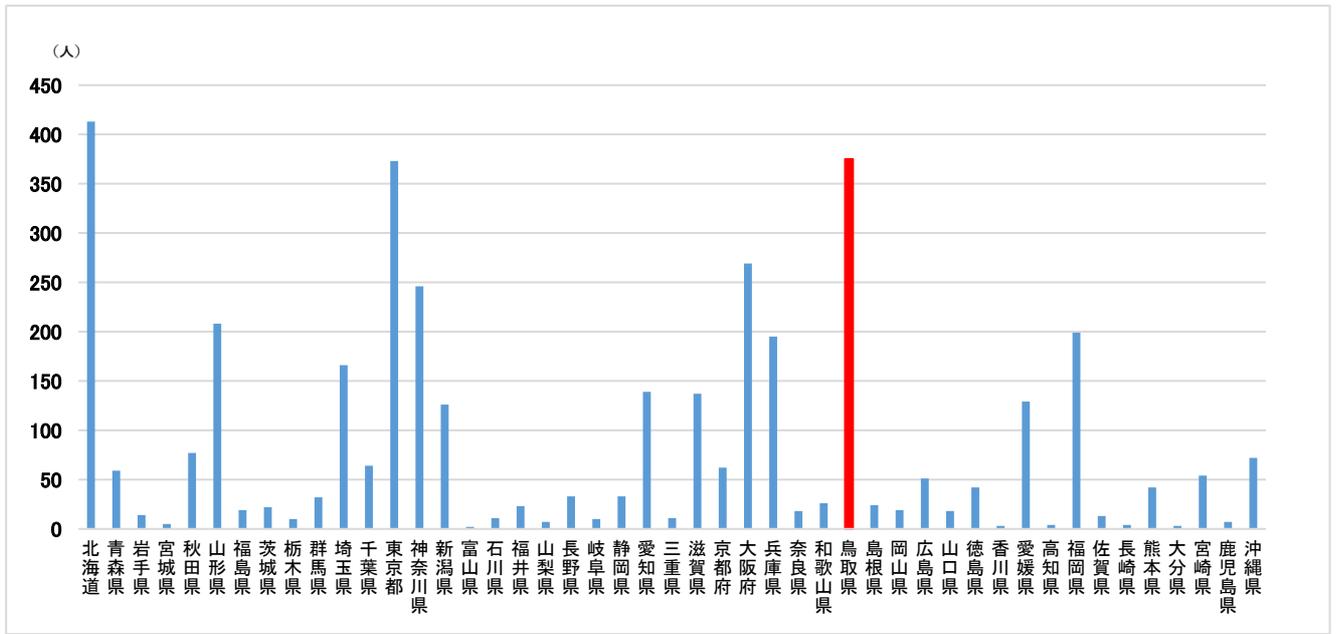


図 6 令和 6 年 百日咳都道府県別累積患者数

(3) 梅毒の発生状況(図7及び8参照)

平成23年以降増加のみられた全国の梅毒報告数について、令和3年以降顕著に増加がみられている。これを踏まえ、鳥取県における過去10年の年別報告数の推移、年齢別報告数についてまとめた。

ア 年別報告数の推移

全国の梅毒報告数は令和3年以降急増しており、令和6年の報告数は14,829人であった。鳥取県においては、令和2年までは増加していたが、令和3年、4年は届出数が減少し、令和5年から再び増加し、令和6年は41人であった。

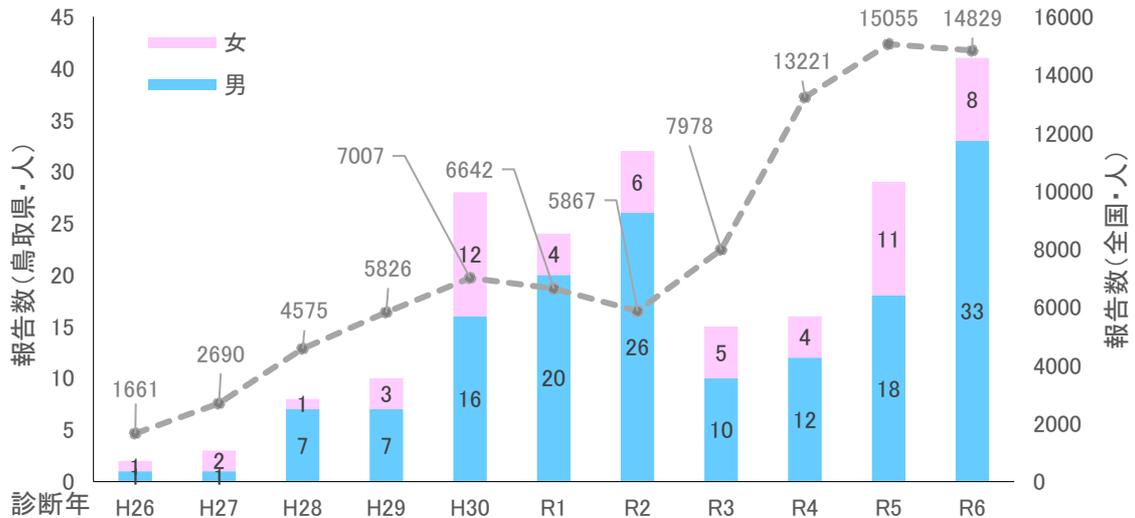


図7 全国及び鳥取県内の梅毒年別報告数の推移

イ 年齢別報告数(令和6年)

令和6年の鳥取県内の年齢別では、男性は20代から80代までの報告があり、40代が10人と最も多く、次いで30代が8人、50代が7人、20代が5人の順であった。女性では20代から90代までの報告があった。

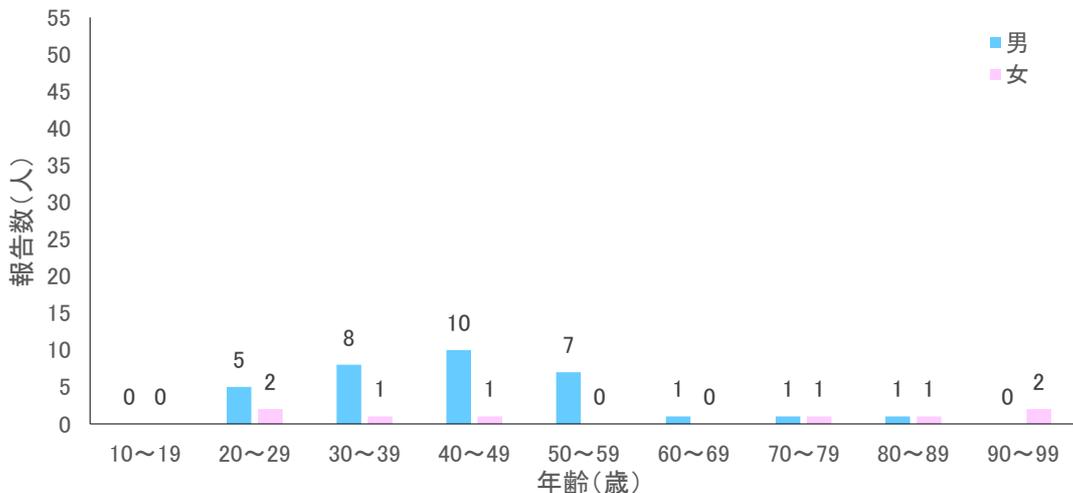


図8 令和6年の鳥取県内の年齢別・性別報告数

3 新型コロナウイルス感染症のゲノム解析

新型コロナウイルスゲノム解析結果(表 15、P36 図 9 参照)

新型コロナウイルス陽性検体として搬入されたもののうち、1,540 件についてゲノム解析を実施した結果、解析不能を除く 1,380 件で解析結果が得られた。解析結果の推移については表 15 と図 9 に示すとおりで、年間を通してオミクロン系統株の流行が見られた。月別に見ると、1 月は XBB 組換体の子孫系統である EG.5.1 系統が主系統であったが、2 月以降は BA.2.86.1 や、その子孫系統である JN.1 系統、BA.2.86.1 関連の組換体である XDQ 系統へと主系統の移り変わりが見られた。さらに 5 月には JN.1 の子孫系統である KP.3 系統が主系統となり、特に 6 月から 10 月の間は検出割合のほとんどを占める結果となった。そして、11 月には JN.1 関連の組換体である XEC 系統も登場し、12 月に主系統となった。

表 15 新型コロナウイルスゲノム解析結果の推移(検出割合上位 3 系統)

	1 位	2 位	3 位
令和 6 年 1 月	EG.5.1 系統 【30.8%】	BA.2.86.1 【25.9%】	GK.1 系統 【17.2%】
2 月	BA.2.86.1 【35.5%】	JN.1 系統(KP、LB 系統以外) 【31.0%】	EG.5.1 系統 【8.6%】
3 月	BA.2.86.1 【34.6%】	JN.1 系統(KP、LB 系統以外) 【30.7%】	XDQ 系統 【21.3%】
4 月	XDQ 系統 【35.8%】	JN.1 系統(KP、LB 系統以外) 【32.1%】	BA.2.86.1 【17.0%】
5 月	KP.3 系統 【37.5%】	XDQ 系統 【32.5%】	KP.1 系統 【12.5%】
6 月	KP.3 系統 【83.9%】	JN.1 系統(KP、LB 系統以外) 【4.8%】	XDQ 系統 【3.2%】
7 月	KP.3 系統 【96.5%】	KP.2 系統 【1.8%】	KP.1 系統 EG.5.1 系統 【0.9%】
8 月	KP.3 系統 【95.1%】	LB.1 系統 【2.1%】	KP.2 系統 【1.4%】
9 月	KP.3 系統 【91.9%】	その他組換体 【4.7%】	JN.1 系統(KP、LB 系統以外) 【3.5%】
10 月	KP.3 系統 【91.4%】	XEC 系統 【8.6%】	—
11 月	KP.3 系統 【47.8%】	KP.1 系統 XEC 系統 【21.7%】(同率)	
12 月	XEC 系統 【41.2%】	KP.3 系統 【35.3%】	その他組換体 【17.6%】

ゲノム解析結果の推移(月別)

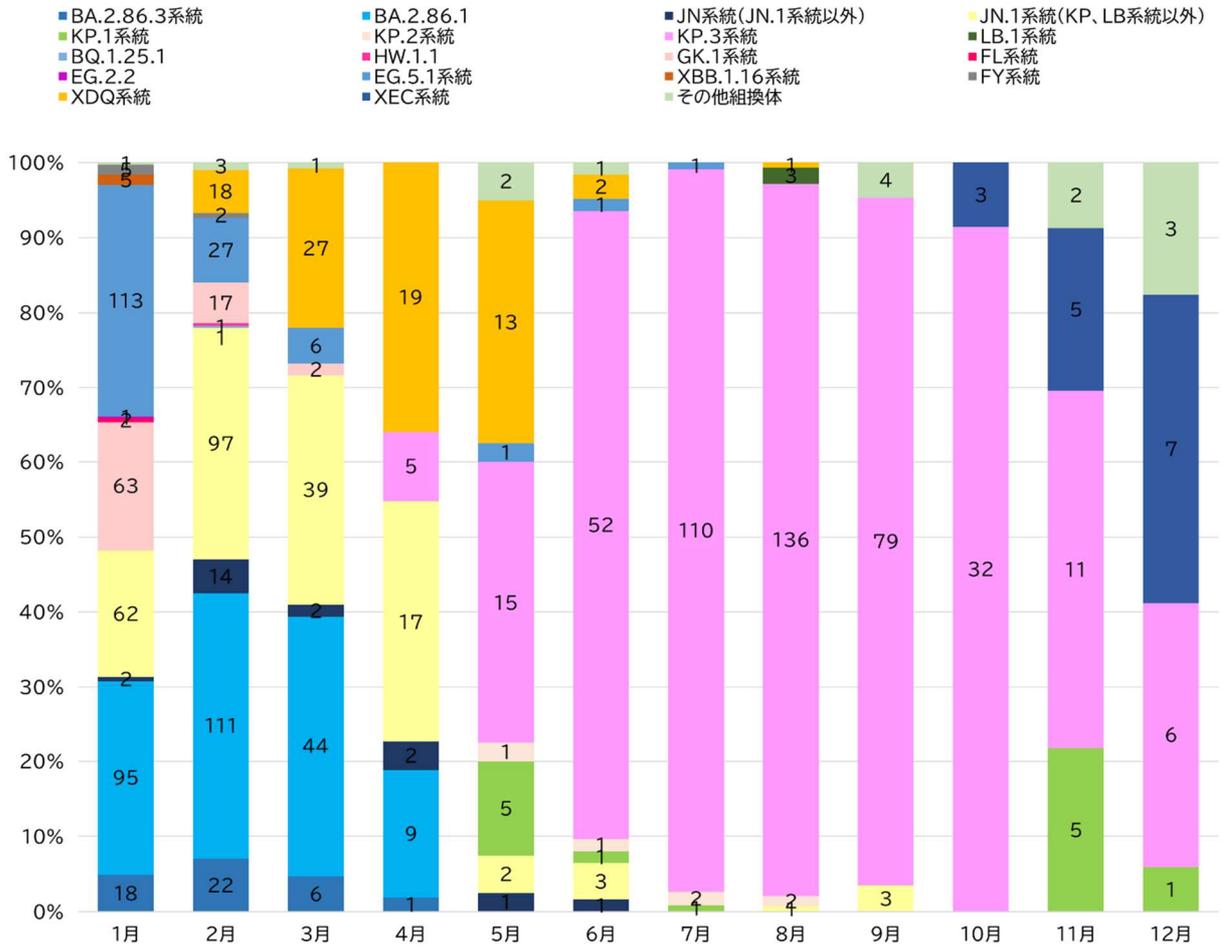


図9 新型コロナウイルスゲノム解析結果の推移

4 感染症集団発生及び臨時休業

鳥取県内における感染症集団発生及び臨時休業(表16参照)

令和6年の鳥取県での感染症集団発生は、感染性胃腸炎49件、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎4件、RSウイルス感染症12件、咽頭結膜熱5件、手足口病33件、マイコプラズマ肺炎1件報告があった。このうち、手足口病は前年度と比べて29件増加した。

感染性胃腸炎は1月から5月まで、手足口病は10月に17件と集団発生報告が多くあった。また、感染性胃腸炎はノロウイルスによるものが2件、その他(原因不明も含む)が16件であり、ロタウイルスによるものは0件であった。

インフルエンザによる臨時休業は213件、集団発生は99件であり、前年度と比べてそれぞれ212件の減少と56件の減少であった。

新型コロナウイルス感染症は、326件集団発生報告がありインフルエンザより多かった。

表16 鳥取県内における感染症集団発生及び臨時休業

令和6年12月31日 現在
※()は前年数値

疾患名	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		計		
	発生	(前年)	発生	(前年)	発生	(前年)	発生	(前年)	発生	(前年)	発生	(前年)	発生	(前年)	発生	(前年)	発生	(前年)	発生	(前年)	発生	(前年)	発生	(前年)	発生	(前年)	
1. 感染性胃腸炎	7	(4)	11	(9)	13	(7)	2	(14)	6	(5)	2	(3)		(1)		(1)		(1)	1	(1)	3	(1)	4	(2)	49	(49)	
再掲	ノロウイルス	6	(4)	7	(6)	10	(6)	1	(2)	3		1	(1)					(1)	1		1	(1)	3		33	(21)	
	ロタウイルス				(1)																				0	(1)	
	サボウイルス																								0	(0)	
	その他(原因不明も含む)	1		4	(2)	3	(1)	1	(12)	3	(5)	1	(2)		(1)		(1)				(1)	2		1	(2)	16	(27)
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1								1			(1)					2								4	(1)	
3. RSウイルス感染症									3	(2)	1	(1)	5	(8)	1		2									12	(11)
4. 咽頭結膜熱	1				1		1		2	(1)													(1)		5	(2)	
5. 手足口病											1	(1)	5	(1)	2	(1)	6	(1)	17		2					33	(4)
6. ヘルパンギーナ												(3)														0	(3)
7. 水痘																										0	(0)
8. 流行性角結膜炎																										0	(0)
9. マイコプラズマ肺炎																							1		1	(0)	
10. インフルエンザ	臨時休業	36	(4)	51	(4)	25	(6)	1		2	(3)		(1)		(1)			(38)	(107)	10	(161)	88	(100)	213	(425)		
	集団発生	17	(2)	8	(7)	11	(10)	3	(4)		(4)			1		2	(2)		(6)	(21)	5	(48)	52	(51)	99	(155)	
11. 新型コロナウイルス感染症	57	-	67	-	24	-	16	-	13	(3)	14	(16)	50	(46)	22	(60)	35	(59)	12	(11)	6	(17)	10	(17)	326	(229)	

※新型コロナウイルス感染症は5類移行後(令和5年5月8日以降)の集団感染事例

5 病原体検査状況

(1) 病原体検査状況

ア 疾病別、月別検体受入状況(P42 表 17 参照)

検体受入件数は 1,902 件（全数把握対象疾患 216 件、定点把握対象疾患 1,686 件）であった。

全数把握対象疾病では、多い順に腸管出血性大腸菌感染症 110 件、日本紅斑熱 38 件、重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。）22 件、麻しん 14 件、つつが虫病 12 件、風しん 11 件等であった。

腸管出血性大腸菌感染症は年間を通して検体の搬入があり、5 月と 6 月にそれぞれ 19 件と 22 件と多い傾向にあった。

ダニ媒介感染症である日本紅斑熱及び重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、つつが虫病は、4 月から 12 月まで検体の搬入があり、マダニの活動が盛んな春から秋にかけて搬入が相次いだ。

定点把握対象疾病では、多い順に新型コロナウイルス感染症 1540 件、感染性胃腸炎 69 件、インフルエンザ 39 件等であった。新型コロナウイルス感染症、感染性胃腸炎及びインフルエンザは年間を通して検体の搬入があり、それぞれの流行に合わせて、新型コロナウイルス感染症は 1 月から 3 月及び 7 月から 9 月、感染性胃腸炎は 2 月から 3 月、インフルエンザは 1 月から 4 月及び 11 月から 12 月に検体数が多かった。

イ 疾病別病原体検出状況(P43 表 18a 及び P44 表 18b 参照)

腸管出血性大腸菌感染症、日本紅斑熱等の 13 疾病 16 種類 34 型（血清型、遺伝子型、遺伝子型および遺伝子群を含む）のウイルス、リケッチア及び細菌が検出された。

検出されたものは以下のとおりである。

- (ア) 腸管出血性大腸菌感染症：O55 が 2 件、O111 が 9 件、O146 が 1 件、O157 が 13 件、O 血清型別不明が 2 件検出された。
- (イ) 日本紅斑熱：日本紅斑熱リケッチアが 10 件検出された。
- (ウ) 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）：SFTS ウイルスが 2 件検出された。
- (エ) レジオネラ症：レジオネラ属菌 (*Legionella pneumophila* (血清群 5) 及び *Legionella dumoffii*) が検出された。
- (オ) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎：A 群溶血性レンサ球菌 T 型別不明が 1 件検出された。
- (カ) 感染性胃腸炎 (P45 図 10 参照)：アデノウイルス、エンテロウイルス、アストロウイルス、ノロウイルス、サボウイルス、黄色ブドウ球菌、セレウス菌が検出された。ノロウイルスが 28 件と最も多く、次いでアデノウイルスが 10 件、アストロウイルスが 6 件検出された。
- (キ) 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）：A 群ロタウイルスが 1 件検出された。
- (ク) 手足口病 (P45 図 11 参照)：エンテロウイルス型別不能が 4 件、コクサッキーウイルス A16 型が 6 件検出された。
- (ケ) ヘルパンギーナ (P46 図 12 参照)：エンテロウイルス型別不能が 2 件、コクサッキーウイルス A5 型が 1 件、コクサッキーウイルス A6 型が 1 件検出された。

- (コ) インフルエンザ（インフルエンザ様疾患も含む）：AH3 亜型が 2 件、AH1pdm09 亜型が 22 件、B 型系統不明が 1 件、B 型ビクトリア系統が 8 件検出された。
- (サ) 流行性角結膜炎：アデノウイルス型別不明が 4 件、アデノウイルス 3 型が 1 件、アデノウイルス 4 型が 1 件、アデノウイルス 8 型が 3 件、アデノウイルス 37 型が 1 件検出された。
- (シ) 無菌性髄膜炎：エンテロウイルス型別不能が 1 件、エコーウイルス 11 型が 2 件、ヘルペスウイルス 7 型が 1 件検出された。
- (ス) RS ウイルス感染症：RS ウイルス型別不明が 1 件検出された。

表17 疾病別月別検体受入状況(令和6年1月～12月)

臨床診断名(疑いも含む)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
全数把握対象疾患	腸管出血性大腸菌感染症	4	6	9	2	19	22	6	9	6	8	11	8	110	
	日本紅斑熱				5	5	8	2	4	3	5	5	1	38	
	つつが虫病				5		2		2		2		1	12	
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)				5	1	8	1	3	1	2		1	22	
	デング熱								1					1	
	チクングニア熱								1					1	
	ジカウイルス感染症								1					1	
	レジオネラ症					1								1	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症				1	2					1			4	
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)					1								1	
	麻疹			3	2	3	3							3	14
	風しん				2	3	3							3	11
小計	4	6	12	22	35	46	9	21	11	17	16	17	216		
定点把握対象疾患	咽頭結膜熱													0	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎									1				1	
	感染性胃腸炎	4	12	18	4	4	4	3	2	3	2	8	5	69	
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)			1				1						2	
	手足口病									2	4	3		9	
	ヘルパンギーナ						2	1	2				1	6	
	流行性耳下腺炎								1					1	
	インフルエンザ	4	5	4	4	1	1	1	1	2	1	5	10	39	
	急性出血性結膜炎													0	
	流行性角結膜炎	1	1		1	1	1	2		1		1	2	11	
	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。)													0	
	無菌性髄膜炎				1				1	3		1	1	7	
	伝染性紅斑													0	
	RSウイルス感染症									1				1	
	マイコプラズマ肺炎													0	
	水痘													0	
	突発性発疹													0	
新型コロナウイルス感染症	362	334	186	89	16	49	102	198	129	27	31	17	1540		
小計	371	352	209	99	22	57	110	205	142	34	49	36	1686		
計	375	358	221	121	57	103	119	226	153	51	65	53	1,902		

表18a 全数把握対象疾患 疾病別病原体検出状況(令和6年1月~12月)

		腸管出血性大腸菌O55	腸管出血性大腸菌O111	腸管出血性大腸菌O146	腸管出血性大腸菌O157	腸管出血性大腸菌 型別不明	日本紅斑熱リケッチア	つつが虫病リケッチア	SFTSウイルス	デングウイルス	チクングニアウイルス	ジカウイルス	レジオネラ属菌	NDM、KPC、OXA-48)	カルバペネム1セ遺伝子(IIMP、)	麻しんウイルス	風しんウイルス	計
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2	9	1	13	2												27
4類感染症	日本紅斑熱						10											10
	つつが虫病																	0
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限)								2									2
	デング熱																	0
	チクングニア熱																	0
	ジカウイルス感染症																	0
	レジオネラ症												1					1
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症																	0
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)																	0
	麻しん																	0
	風しん																	0
計		2	9	1	13	2	10	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	40

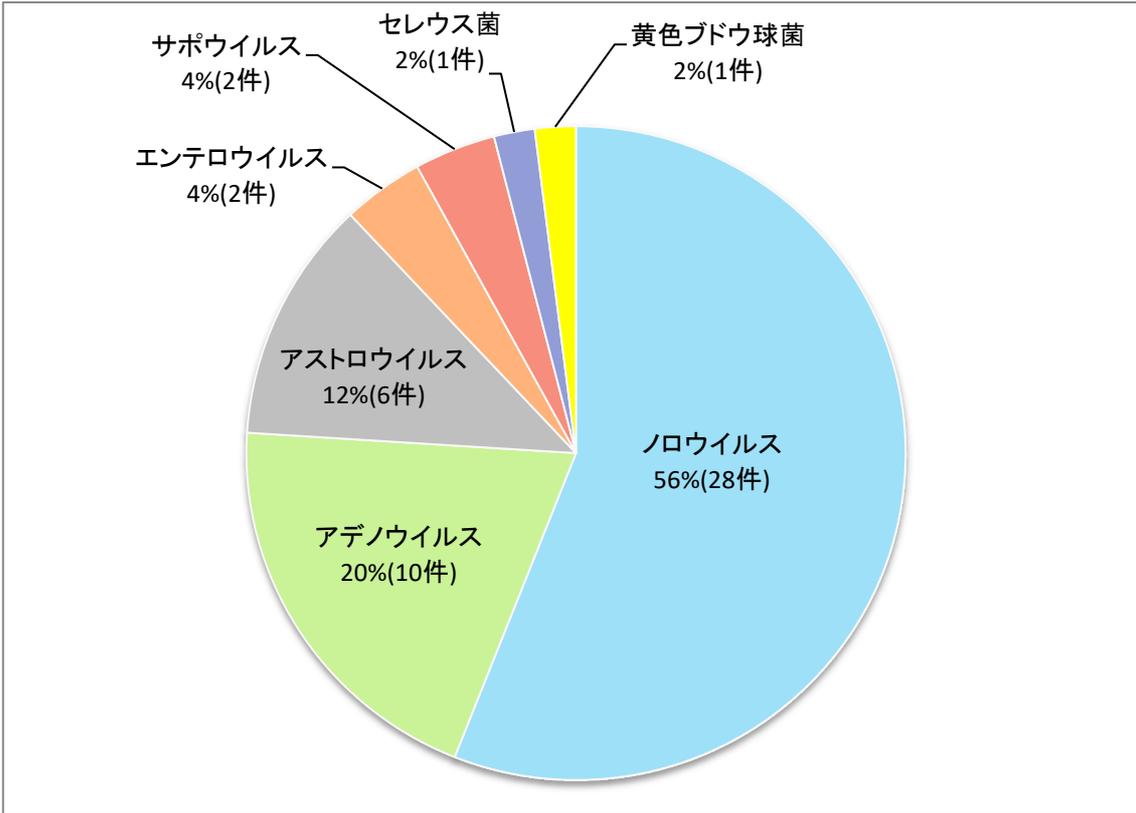
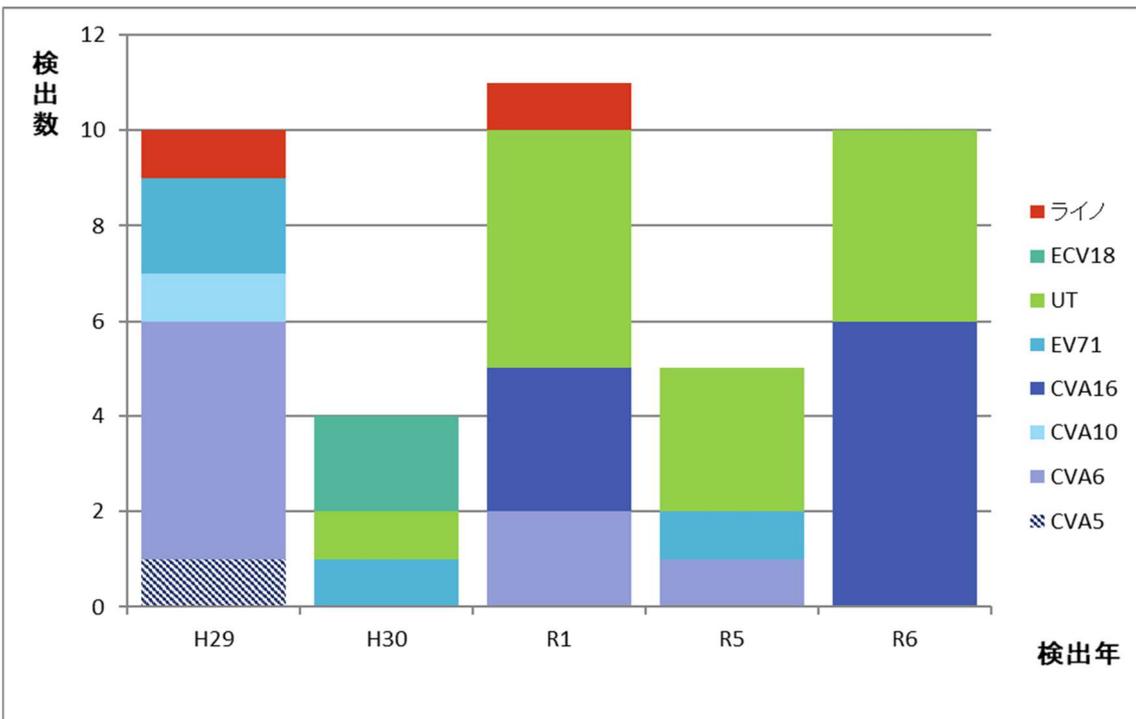
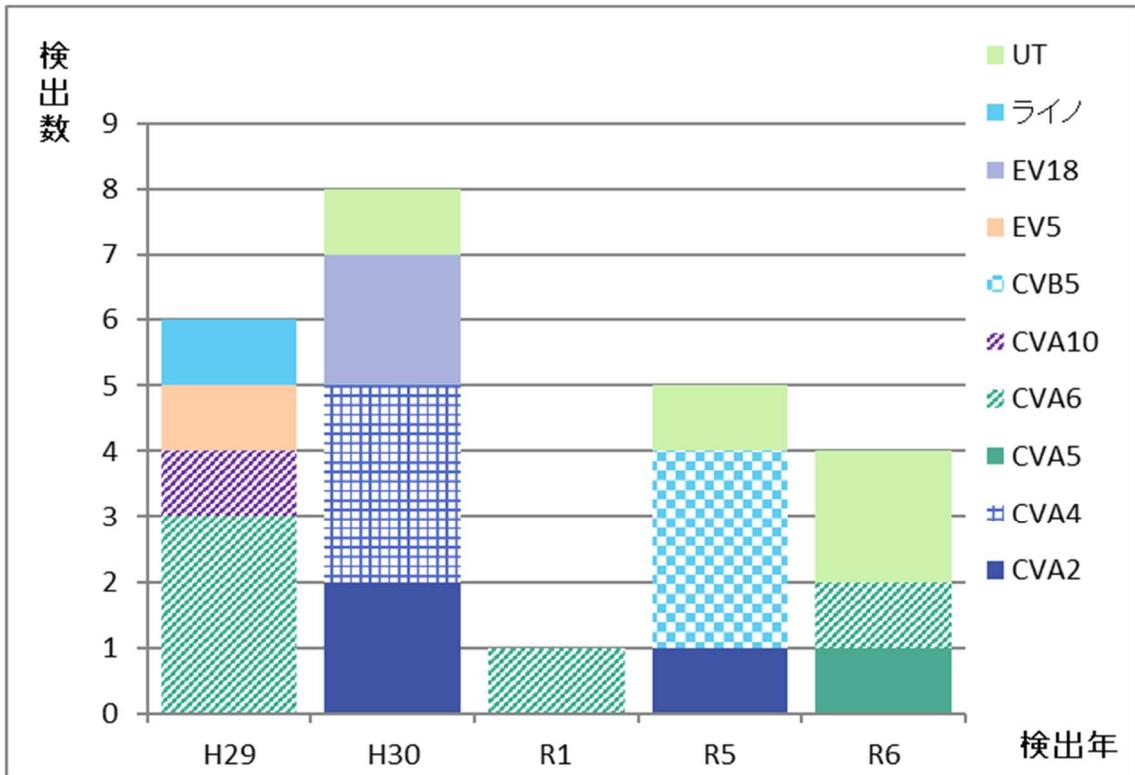


図 10 感染性胃腸炎診断の便検体から検出されたウイルスの割合



※CV : コクサッキーウイルス UT : 型別不能

図 11 年別手足口病と診断された患者の咽頭ぬぐい液検体からの検出ウイルス



※CV：コクサッキーウイルス UT：型別不能

図 12 年別ヘルパンギーナと診断された患者の咽頭ぬぐい液検体からの検出ウイルス

(2) 全数把握対象疾患

ア ウイルス検査状況

(ア) SFTSウイルス

保健所の積極的疫学調査により 22 件の検査を実施し、2 件（2 名）から SFTS ウイルスが検出された。

(イ) デングウイルス

保健所の積極的疫学調査により 1 件の検査を実施したが、デングウイルスは検出されなかった。

(ウ) チクングニアウイルス

保健所の積極的疫学調査により 1 件の検査を実施したが、チクングニアウイルスは検出されなかった。

(エ) ジカウイルス

保健所の積極的疫学調査により 1 件の検査を実施したが、ジカウイルスは検出されなかった。

(オ) 麻しんウイルス

保健所の積極的疫学調査により 14 件の検査を実施したが、麻しんウイルスは検出されなかった。

(カ) 風しんウイルス

保健所の積極的疫学調査により 11 件の検査を実施したが、風しんウイルスは検出されなかった。

(キ) アデノウイルス等

保健所の積極的疫学調査により急性脳炎（ウエストナイル脳炎等を除く。）の原因究明の一環として 1 件の検査を実施したが、アデノウイルス、エンテロウイルス、ヘルペスウイルス、ライノウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルス、ヒトパレコウイルス、新型コロナウイルスは検出されなかった。

イ リケッチア検査状況

(ア) 日本紅斑熱

保健所の積極的疫学調査により 38 件の検査を実施し、10 件（8 名）から日本紅斑熱リケッチアが検出された。

(イ) つつが虫病

保健所の積極的疫学調査により 12 件の検査を実施したが、つつが虫病リケッチアは検出されなかった。

ウ 細菌検査状況

(ア) 腸管出血性大腸菌感染症

県内で腸管出血性大腸菌感染症患者（健康保菌者を含む）は 21 名発生した。当所では、患者（陰性化確認）と患者の接触者（結果陽性の場合の陰性化確認も含む）について検査を実施した。その結果、27 件（13 名）の腸管出血性大腸菌を分離・同定し、これらの血清型（ベロ毒素型）は O111 (VT1・VT2) 9 株、O157 (VT1・VT2) 4 株、O157 (VT1) 5 株、O157 (VT2) 4 株、O55 (VT1) 2 株、O146 (VT2) 1 株、O 血清型別不明 (VT2) 2 株であった。また、当所で分離した菌株や、提供を受けた

菌株のうち、11件についてはMLVA検査を実施した。（P48表19参照）。

(イ) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

保健所の積極的疫学調査により4件について検査を実施したところ、いずれも4つの遺伝子型（IMP型、NDM型、KPC型、OXA-48型）に該当しなかった。

表19 腸管出血性大腸菌感染症発生状況(令和6年1月～12月)

No.	検出月日	当所検査	居住地域	性別	年齢※	症状の有無	O血清型	Vero毒素型	MLVAtype
1	2月5日	同定	中部	女	10歳代	有	157	VT2	24m0025
2	3月22日	分離・同定	西部	男	幼児	有	111	VT1・VT2	24m3007
3	5月2日	同定	中部	男	幼児	有	157	VT1・VT2	—
4	5月13日	分離・同定	中部	女	70歳代	有	157	VT1・VT2	—
5	5月23日	—	西部	男	20歳代	有	157	VT1・VT2	—
6	5月24日	分離・同定	西部	女	50歳代	無	55	VT1	—
7	5月29日	分離・同定	西部	女	10歳代	無	55	VT1	—
8	6月7日	分離・同定	西部	男	幼児	有	111	VT1・VT2	24m3032
9	6月7日	分離・同定	西部	女	40歳代	無	146	VT2	—
10	7月18日	—	西部	男	60歳代	無	157	VT2	24m0270
11	8月6日	同定	中部	男	60歳代	有	157	VT1・VT2	24m0567
12	8月22日	—	西部	男	幼児	有	26	VT1	24m2113
13	8月26日	—	西部	男	20歳代	有	157	VT2	22m0066
14	9月17日	分離・同定	西部	女	20歳代	無	型別不明	VT2	—
15	10月22日	—	東部	男	20歳代	有	157	VT2	24m0568
16	10月23日	—	東部	女	10歳代	無	型別不明	VT1	—
17	10月29日	分離・同定	中部	男	小学生	有	157	VT1	24m0417
18	11月1日	分離・同定	中部	女	40歳代	有	157	VT1	—
19	11月5日	—	西部	女	20歳代	有	157	VT2	24m0569
20	11月22日	—	西部	女	10歳代	有	157	不明	—
21	12月7日	分離・同定	西部	男	幼児	有	157	VT2	24m0669

※表中の着色部分はそれぞれ同一事例を示す。それ以外は個別事例

※幼児：1歳以上の未就学児

(3) 定点把握対象疾患(P50 表 20 参照)

ア ウイルス検出状況

- (ア) アデノウイルスは、3 型、4 型、5 型、37 型、40/41 型が各 1 件、8 型が 3 件、型別不明 11 件の計 20 件検出された (P51 図 13 参照)。
- (イ) 2023/24 シーズン (2023 年 9 月 4 日～2024 年 9 月 1 日) のインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 亜型が 9 件、AH3 亜型が 16 件、B 型ビクトリア系統が 8 件、B 型系統不明が 1 件検出された。(P51 図 14A, P52 図 15 参照)。
2024/25 シーズン (2024 年 9 月 2 日～2025 年 8 月 31 日) のインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 亜型が主に流行した (P52 図 14B 参照)。
2024/25 シーズンにはAH1pdm09 亜型が 27 件、AH3 亜型が 1 件、B 型ビクトリア系統が 4 件検出された (P52 図 15 参照)。
- (ウ) RS ウイルスは、RS ウイルス型別不明が 1 件検出された。
- (エ) ノロウイルスは 28 件検出された。遺伝子群はすべて G II であった。
- (オ) アストロウイルスは 6 件検出された。
- (カ) ヘルペスウイルスは、ヘルペスウイルス 7 が 1 件検出された。
- (キ) エンテロウイルスは、10 月に最も多く検出された。型別では、コクサッキーウイルス A16 型 6 件が多く検出された (P53 図 16 参照)。
- (ク) サポウイルスは、1 月と 11 月に各 1 件、計 2 件検出された (P53 図 17 参照)。

イ 細菌検出状況

- (ア) A 群溶血性レンサ球菌が 1 件検出された。
- (イ) 黄色ブドウ球菌が 1 件検出された。
- (ウ) セレウス菌が 1 件検出された。

表20 定点把握対象疾患 月別ウイルス等検出状況(令和6年1月～12月)

検出病原体	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
アデノ 1型													0
アデノ 2型													0
アデノ 3型						1							1
アデノ 4型											1		1
アデノ 5型					1								1
アデノ 7型													0
アデノ 8型								2		1	1		4
アデノ 37型					1								1
アデノ 40/41型	1												1
アデノ 54型													0
アデノ 56型													0
アデノ 64型													0
アデノ 型別不能			1	2	2		1	1	1		3		11
インフルエンザ AH3亜型			2										2
インフルエンザ AH1pdm09亜型	3	1	1						1		5	11	22
インフルエンザ B型ビクトリア系統	2	2	1	3									8
インフルエンザ B型山形系統													0
インフルエンザ B型系統不明		1											1
コクサッキー A2型													0
コクサッキー A4型													0
コクサッキー A5型				1	1								2
コクサッキー A6型						1							1
コクサッキー A9型													0
コクサッキー A10型													0
コクサッキー A16型								2	2	2			6
コクサッキー B2型			1										1
コクサッキー B5型													0
エコー 3型													0
エコー 5型													0
エコー 6型													0
エコー 11型										2			2
エコー 18型													0
エンテロ A71型													0
エンテロ 型別不能							1	1	2	2		1	7
その他のエンテロウイルス													0
ライノ													0
ムンプス													0
パルボウイルスB19													0
RS A亜型													0
RS B亜型													0
RS 型別不能								1					1
A群ロタ		1											1
C群ロタ													0
アストロ			1	1				1			2	1	6
ノロ GI													0
ノロ GII	3	9	12			1					3		28
サボ GI型													0
サボ GV型													0
サボ 型不明	1										1		2
ヘルペス 3													0
ヘルペス 4													0
ヘルペス 5													0
ヘルペス 6													0
ヘルペス 7								1					1
A群レンサ球菌								1					1
黄色ブドウ球菌		1											1
セレウス菌		1											1

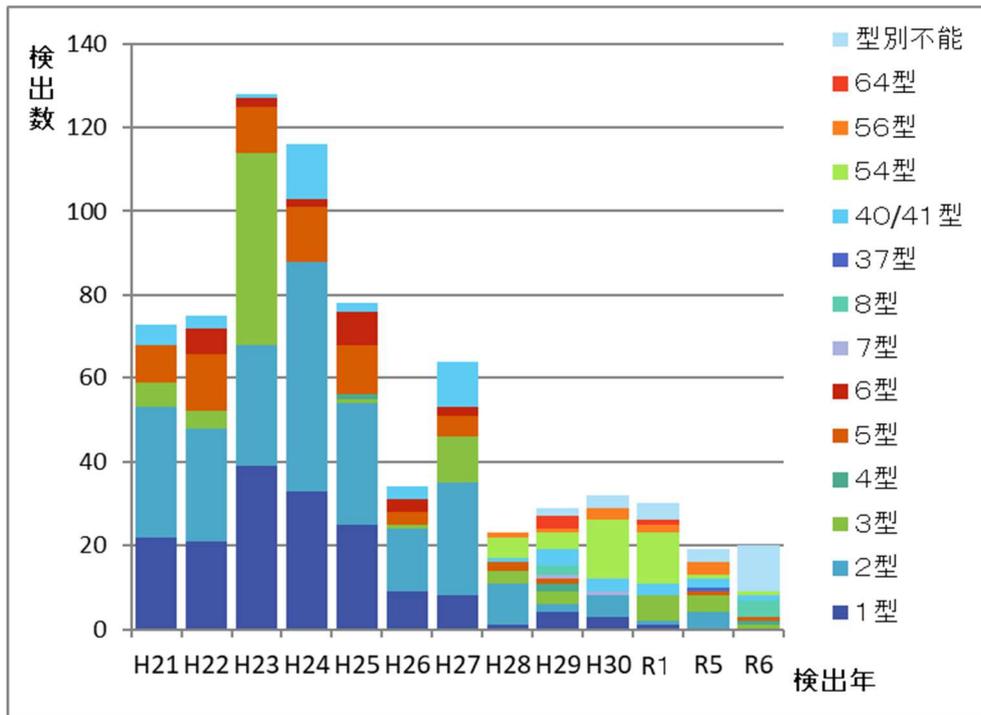


図 13 年別型別 アデノウイルス検出状況

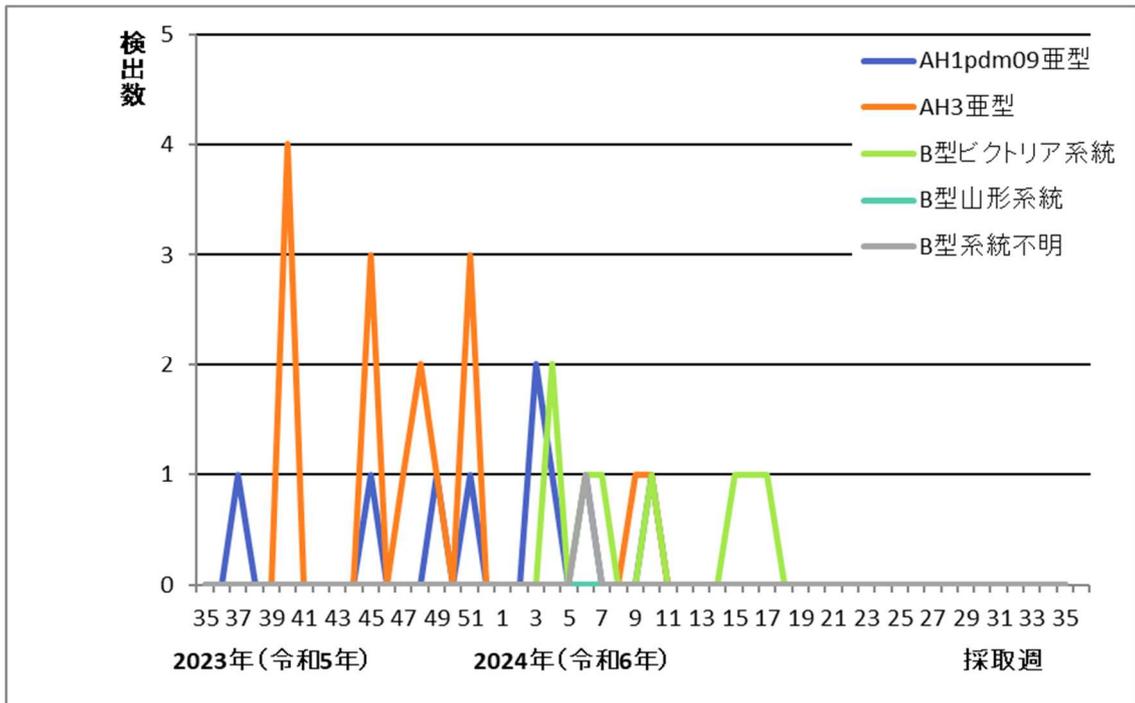


図 14A 2023/24 シーズン インフルエンザウイルス検出状況

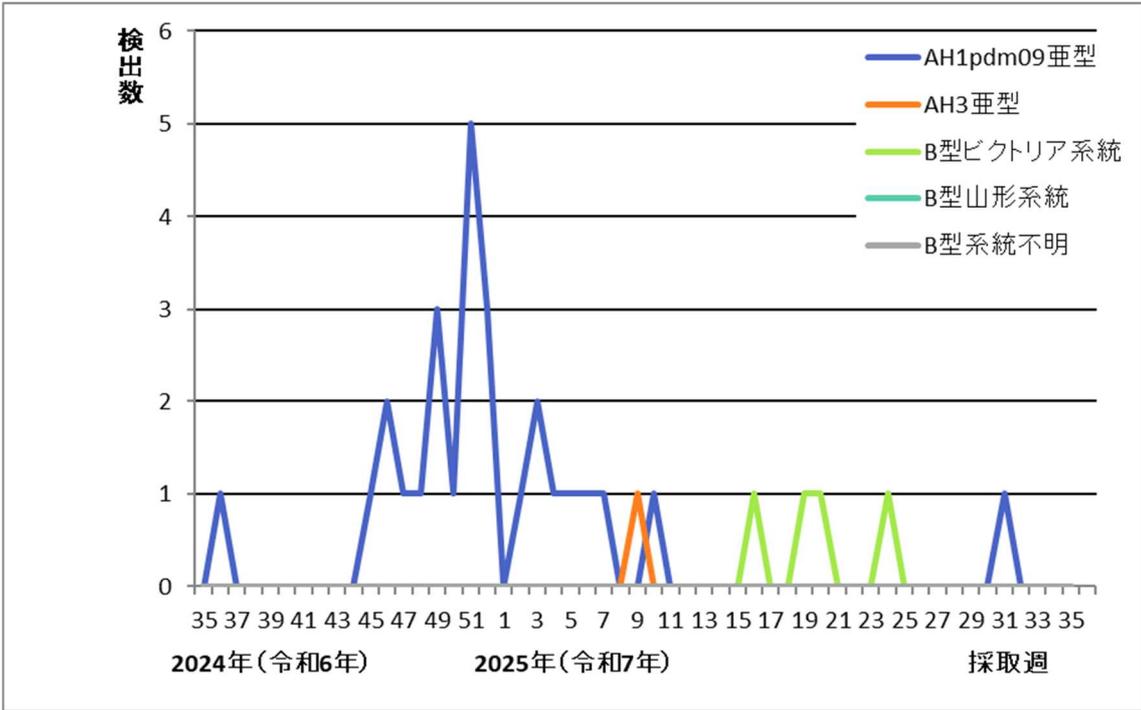
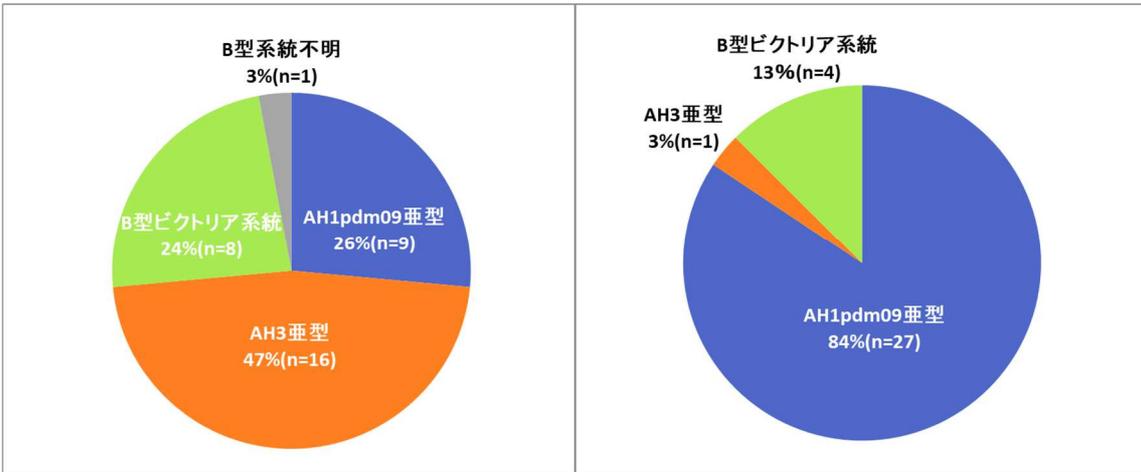


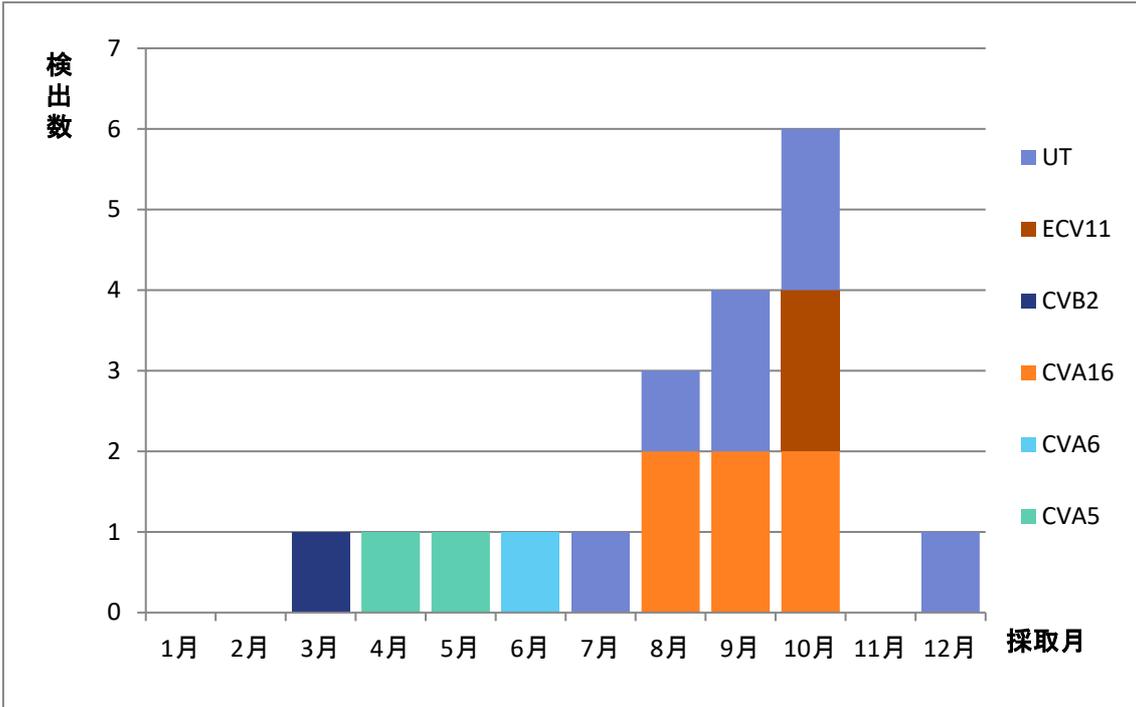
図 14B 2024/25 シーズン インフルエンザウイルス検出状況



<2023/24 シーズン>

<2024/25 シーズン>

図 15 2023/24、2024/25 シーズンにおけるインフルエンザウイルス型別検出割合



※CV：コクサッキーウイルス UT：型別不能

図 16 令和 6 年 月別 エンテロウイルス検出状況

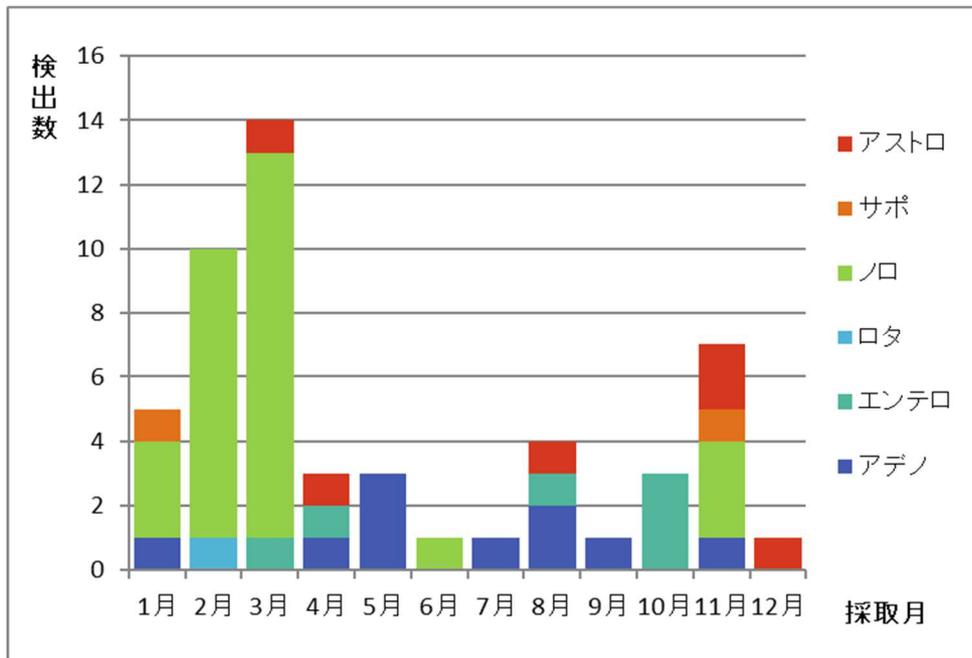


図 17 令和 6 年 月別 便検体由来ウイルス検出状況

6 鳥取県感染症発生動向調査情報 月報（抜粋）

（鳥取県感染症対策協議会情報解析部会）

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年2月16日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和6年第1週から第4週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(1週～4週) (R6.1.1～R6.1.28)	前回(49週～52週)4週 (R5.12.4～R5.12.31)	前々回(45週～48週)4週 (R5.11.6～R5.12.3)
1 インフルエンザ(1,285) [↓1,361]	1 インフルエンザ (2,646)	1 インフルエンザ (3,509)
2 新型コロナウイルス感染症(1,177) [↑647]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (714)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (658)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(503) [↓211]	3 新型コロナウイルス感染症 (530)	3 感染性胃腸炎 (279)
4 感染性胃腸炎 (364) [↑87]	4 感染性胃腸炎 (277)	4 新型コロナウイルス感染症 (243)
5 咽頭結膜熱 (43) [↓38]	5 咽頭結膜熱 (81)	5 手足口病 (75)
6 その他 (34) [↓18]	6 その他 (52)	6 その他 (87)
(合計 3,406)	(合計 4,300)	(合計 4,851)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は3,406件であり、21%(894件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
新型コロナウイルス感染症	122%	インフルエンザ	51%
感染性胃腸炎	31%	咽頭結膜熱	47%
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30%

3 コメント

- ・インフルエンザは1月24日に警報解除となった後、再度、患者報告数が増加し、2月14日に今シーズン2回目となるインフルエンザ注意報が発令されました。シーズン始めはA型が多く確認されていましたが、1月下旬以降B型による集団感染事例が複数報告されており、今後のさらなる感染拡大に注意が必要です。
新型コロナウイルス感染症は、12月下旬以降10代以下を中心に顕著に増加しており、引き続き感染の拡大に注意が必要です。いずれも、手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。
また、新型コロナウイルス感染症についてはワクチン接種の検討もお願いします。
咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- ・県内全域にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、消毒、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
- ・ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎が増加しています。集団感染事例も確認されており、トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前などには、手洗いを徹底しましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年3月15日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和6年第5週から第9週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(5週～9週)5週 (R6.1.29～R6.3.3)	前回(52週～4週)5週 (R5.12.25～R6.1.28)	前々回(47週～51週)5週 (R5.11.20～R5.12.24)
1 新型コロナウイルス感染症(1,572)[↑192]	1 インフルエンザ(1,790)	1 インフルエンザ(4,199)
2 インフルエンザ(1,334)[↓456]	2 新型コロナウイルス感染症(1,380)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(950)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(834)[↑186]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(648)	3 新型コロナウイルス感染症(468)
4 感染性胃腸炎(714)[↑297]	4 感染性胃腸炎(417)	4 感染性胃腸炎(350)
5 咽頭結膜熱(106)[↑35]	5 咽頭結膜熱(71)	5 咽頭結膜熱(80)
6 その他(78)[↑31]	6 その他(47)	6 その他(84)
(合計 4,638)	(合計 4,353)	(合計 6,131)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は4,638件であり、7%(285件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
感染性胃腸炎	71%	インフルエンザ	25%
咽頭結膜熱	49%		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	29%		
新型コロナウイルス感染症	14%		

3 コメント

- ・インフルエンザは今シーズン3回目となるインフルエンザ注意報が3月13日に発令されました。シーズン始めはA型が多く確認されていましたが、1月下旬以降B型による集団感染事例が複数報告されており、今後の感染動向に注意が必要です。
新型コロナウイルス感染症は、感染のピークを越えたとみられるものの、感染力に変わりはないため、引き続き注意が必要です。
いずれも、手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。
咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- ・県内全域にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、消毒、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
- ・ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎が増加しています。集団感染事例も確認されており、トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前などには、手洗いを徹底しましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年4月19日(金)
 感染症対策センター
 (衛生環境研究所)

令和6年第10週から第13週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(10週～13週)4週 (R6.3.4～R6.3.31)	前回(6週～9週)4週 (R6.2.5～R6.3.3)	前々回(2週～5週)4週 (R6.1.8～R6.2.4)
1 インフルエンザ (1,549) [↑482]	1 新型コロナウイルス感染症 (1,222)	1 新型コロナウイルス感染症 (1,267)
2 新型コロナウイルス感染症 (785) [↓437]	2 インフルエンザ (1,067)	2 インフルエンザ (1,144)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (515) [↓116]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (631)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (662)
4 感染性胃腸炎 (480) [↓93]	4 感染性胃腸炎 (573)	4 感染性胃腸炎 (472)
5 咽頭結膜熱 (90) [↓3]	5 咽頭結膜熱 (93)	5 咽頭結膜熱 (50)
6 その他 (44) [↓20]	6 その他 (64)	6 その他 (48)
(合計 3,463)	(合計 3,650)	(合計 3,643)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は3,463件であり、5%(187件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	45%	新型コロナウイルス感染症	36%
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	18%
		感染性胃腸炎	16%
		咽頭結膜熱	3%

3 コメント

- ・インフルエンザは、1月下旬以降B型の流行が見られ、3月13日に今シーズン3回目となるインフルエンザ注意報が発令されましたが、4月以降は減少し、4月17日に注意報は解除されました。また、新型コロナウイルス感染症は、2月中旬をピークに減少傾向が続いていますが、感染力に変わりはないため、引き続き注意が必要です。いずれも、手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- ・県内全域にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、消毒、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
- ・ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎が多い状況が続いており、集団感染事例も確認されています。トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前などには、手洗いを徹底しましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年6月6日(木)
感染症対策センター
(衛生環境研究所)

令和6年第14週から第17週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(14週～17週)4週 (R6.4.1～R6.4.28)	前回(10週～13週)4週 (R6.3.4～R6.3.31)	前々回(6週～9週)4週 (R6.2.5～R6.3.3)
1 インフルエンザ (543) [↓1,006]	1 インフルエンザ (1,549)	1 新型コロナウイルス感染症(1,222)
2 新型コロナウイルス感染症 (468) [↓317]	2 新型コロナウイルス感染症 (785)	2 インフルエンザ (1,067)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (466) [↓49]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (515)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (631)
4 感染性胃腸炎 (440) [↓40]	4 感染性胃腸炎 (480)	4 感染性胃腸炎 (573)
5 咽頭結膜熱 (77) [↓13]	5 咽頭結膜熱 (90)	5 咽頭結膜熱 (93)
6 その他 (53) [↑9]	6 その他 (44)	6 その他 (64)
(合計 2,047)	(合計 3,463)	(合計 3,650)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は2,047件であり、41%(1,416件)の減となった。

減少した疾病	
インフルエンザ	65%
新型コロナウイルス感染症	40%
咽頭結膜熱	14%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10%
感染性胃腸炎	8%

3 コメント

- ・インフルエンザは、4月17日に注意報は解除され、5月の中旬には流行期の目安を下回りました。また、新型コロナウイルス感染症は、2月中旬をピークに減少傾向ですが、依然として一定数の患者報告が続き、集団感染事例も散発している状況です。手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。
咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- ・県内全域にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、消毒、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
- ・ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎が多い状況が続いており、集団感染事例も確認されています。トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前などには、手洗いを徹底しましょう。
- ・咽頭結膜熱が中部地区で増加しており、注意が必要です。原因となるアデノウイルスはアルコールが効きにくいいため、石けんと流水でのこまめな手洗いやタオルの共用を避けるなどの感染予防をお願いします。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年7月1日(月)
感染症対策センター
(衛生環境研究所)

令和6年第18週から第22週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(18週～22週)5週 (R6.4.29～R6.6.2)	前回(13週～17週)5週 (R6.3.25～R6.4.28)	前々回(8週～12週)5週 (R6.2.19～R6.3.24)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(901)[↑329]	1 インフルエンザ(1,021)	1 インフルエンザ(1,520)
2 感染性胃腸炎(513)[↓13]	2 新型コロナウイルス感染症(616)	2 新型コロナウイルス感染症(1,133)
3 新型コロナウイルス感染症(429)[↓187]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(572)	3 感染性胃腸炎(680)
4 咽頭結膜熱(162)[↑63]	4 感染性胃腸炎(526)	4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(678)
5 RSウイルス感染症(107)[↑92]	5 咽頭結膜熱(99)	5 咽頭結膜熱(110)
6 その他(205)[↑142]	6 その他(63)	6 その他(65)
(合計 2,317)	(合計 2,897)	(合計 4,186)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は2,317件であり、20%(580件)の減となった。

増加した疾病	減少した疾病
手足口病 1,667%	インフルエンザ 94%
RSウイルス感染症 613%	新型コロナウイルス感染症 30%
咽頭結膜熱 64%	感染性胃腸炎 2%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 58%	

3 コメント

- ・県内全域にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
また、まれに同じA群溶血性レンサ球菌等の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合がありますため、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。
- ・咽頭結膜熱が全県で増加傾向となっており、注意が必要です。原因となるアデノウイルスはアルコールが効きにくいいため、石けんと流水でのこまめな手洗いやタオルの共用を避けるなどの感染予防をお願いします。
- ・RSウイルス感染症は増加傾向であり、注意が必要です。子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤などで消毒し、手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
- ・新型コロナウイルス感染症は、依然として一定数の患者報告が続き、集団感染事例も散発している状況です。手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- ・ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎が多い状況が続いており、集団感染事例も確認されています。トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前などには、手洗いを徹底しましょう。

- 腸管出血性大腸菌感染症が5月に5例発生しています。食品の加熱は十分に行い、調理、食事の前などには、手洗いを徹底しましょう。
- 今年度初めて、東部地区において日本紅斑熱が確認されています。野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年7月23日(火)
 感染症対策センター
 (衛生環境研究所)

令和6年第23週から第26週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(23週～26週)4週 (R6.6.3～R6.6.30)	前回(19週～22週)4週 (R6.5.6～R6.6.2)	前々回(15週～18週)4週 (R6.4.8～R6.5.5)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(567)[↓233]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(800)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(487)
2 感染性胃腸炎(326)[↓107]	2 感染性胃腸炎(433)	2 新型コロナウイルス感染症(427)
3 新型コロナウイルス感染症(315)[↓27]	3 新型コロナウイルス感染症(342)	3 感染性胃腸炎(413)
4 RSウイルス感染症(174)[↑76]	4 咽頭結膜熱(137)	4 インフルエンザ(284)
5 手足口病(138)[↑89]	5 RSウイルス感染症(98)	5 咽頭結膜熱(89)
6 その他(251)[↑68]	6 その他(183)	6 その他(68)
(合計 1,771)	(合計 1,993)	(合計 1,768)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は1,771件であり、11%(222件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
ヘルパンギーナ	183%	インフルエンザ	96%
手足口病	182%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	29%
RSウイルス感染症	78%	咽頭結膜熱	26%
		感染性胃腸炎	25%
		新型コロナウイルス感染症	8%

3 コメント

- 7月3日に県内全域で手足口病警報を発令しました。飛沫や手指を介して感染し、便にもウイルスが排出されます。原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、トイレの後やおむつ交換の後や、食事の前の手洗いの徹底、換気などの感染予防をお願いします。
- 県内全域にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
 また、まれにA、B、G群等の溶血性レンサ球菌の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合がありますため、土に触れた手などの不潔な手で直接傷口に触らないなど、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。
- RSウイルス感染症やヘルパンギーナが増加傾向であり、注意が必要です。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

- 新型コロナウイルス感染症は、依然として一定数の患者報告が続き、集団感染事例も散発している状況です。手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- 梅毒が増加しており、注意が必要です。感染した場合は、適切な治療が必要であり、早期発見することで感染症拡大防止につながります。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。
- 今年度初めて、ダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群(SFTS)が中部地域で確認されています。野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年8月26日(月)
感染症対策センター
(衛生環境研究所)

令和6年第27週から第30週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(27週～30週)4週 (R6.7.1～R6.7.28)	前回(23週～26週)4週 (R6.6.3～R6.6.30)	前々回(19週～22週)4週 (R6.5.6～R6.6.2)
1 新型コロナウイルス感染症 (1,254) [↑939]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (567)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (800)
2 手足口病 (496) [↑358]	2 感染性胃腸炎 (326)	2 感染性胃腸炎 (433)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (423) [↓144]	3 新型コロナウイルス感染症 (315)	3 新型コロナウイルス感染症 (342)
4 感染性胃腸炎 (240) [↓86]	4 RSウイルス感染症 (174)	4 咽頭結膜熱 (137)
5 RSウイルス感染症 (216) [↑42]	5 手足口病 (138)	5 RSウイルス感染症 (98)
6 その他 (284) [↑33]	6 その他 (251)	6 その他 (183)
(合計 2,913)	(合計 1,771)	(合計 1,993)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は2,913件であり、64%(1,142件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
新型コロナウイルス感染症	298%	感染性胃腸炎	26%
手足口病	259%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	25%
ヘルパンギーナ	74%	咽頭結膜熱	22%
RSウイルス感染症	24%		

3 コメント

- ・県内全域に新型コロナウイルス感染症の感染注意情報を発令しています。手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- ・県内全域にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
また、まれにA、B、G群等の溶血性レンサ球菌の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合があります。土に触れた手などの不潔な手で直接傷口を触らないなど、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。
- ・7月3日から県内全域に手足口病警報を発令しています。飛沫や手指を介して感染し、便にもウイルスが排出されます。原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前の手洗いの徹底、換気などの感染予防をお願いします。

- R S ウイルス感染症が増加傾向であり、注意が必要です。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
- 6月以降、東部地区で小学生から高校生を中心に百日咳が急増しており、注意が必要です。有効な予防法は予防接種ですが、ワクチンの免疫効果は4～12年で弱まってくるといわれており、乳幼児期に接種した方でも感染することがあります。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
- 梅毒が増加しており、注意が必要です。感染した場合は、適切な治療が必要であり、早期発見することで感染症拡大防止につながります。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年9月27日(金)
感染症対策センター
(衛生環境研究所)

令和6年第31週から第35週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(31週～35週)5週 (R6.7.29～R6.9.1)	前回(26週～30週)5週 (R6.6.24～R6.7.28)	前々回(21週～25週)5週 (R6.5.20～R6.6.23)
1 新型コロナウイルス感染症 (1,773) [↑435]	1 新型コロナウイルス感染症 (1,338)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (920)
2 手足口病 (466) [↓87]	2 手足口病 (553)	2 感染性胃腸炎 (462)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (465) [↓51]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (516)	3 新型コロナウイルス感染症 (408)
4 感染性胃腸炎 (251) [↓64]	4 感染性胃腸炎 (315)	4 RSウイルス感染症 (195)
5 RSウイルス感染症 (168) [↓94]	5 RSウイルス感染症 (262)	5 咽頭結膜熱 (171)
6 その他 (224) [↓123]	6 その他 (347)	6 その他 (292)
(合計 3,347)	(合計 3,331)	(合計 2,448)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は3,347件であり、16件の増となった。

増加した疾病	減少した疾病
インフルエンザ 161%	ヘルパンギーナ 56%
新型コロナウイルス感染症 33%	咽頭結膜熱 47%
	RSウイルス感染症 36%
	感染性胃腸炎 20%
	手足口病 16%
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 10%

3 コメント

【新型コロナウイルス感染症】

県内全域に発令していた感染注意情報を9月4日に解除しましたが、依然として一定数の患者報告が続き、集団感染事例も散発しています。手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

県内全域に警報を発令しています。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

また、まれにA、B、G群等の溶血性レンサ球菌の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合があるため、土に触れた手などの不潔な手で直接傷口を触らないなど、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。

【手足口病】

県内全域に警報を発令しています。飛沫や手指を介して感染し、便にもウイルスが排出されます。原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前の手洗いの徹底、換気などの感染予防をお願いします。

【百日咳】

6月以降、東部地区で小学生から高校生を中心に流行が続いており、注意が必要です。有効な予防法は予防接種ですが、ワクチンの免疫効果は4～12年で弱まってくるといわれており、乳幼児期に接種した方でも感染することがあります。咳などの症状がある場合は早めに受診し、手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

【ダニ媒介性感染症】

ダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や日本紅斑熱の感染報告が続いていますので注意しましょう。マダニは春から秋にかけて活発となることから、野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。

【梅毒】

本年は8月末時点で昨年1年間の29件を超える30件の感染が報告されており、注意が必要です。感染した場合は、適切な治療が必要であり、早期発見することで感染症拡大防止につながります。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年10月30日(水)
 感染症対策センター
 (衛生環境研究所)

令和6年第36週から第39週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(36週～39週)4週 (R6.9.2～R6.9.29)	前回(32週～35週)4週 (R6.8.5～R6.9.1)	前々回(28週～31週)4週 (R6.7.8～R6.8.4)
1 新型コロナウイルス感染症 (625) [↓704]	1 新型コロナウイルス感染症(1,329)	1 新型コロナウイルス感染症 (1,530)
2 手足口病 (611) [↑272]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(364)	2 手足口病 (496)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(400) [↑36]	3 手足口病 (339)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (405)
4 感染性胃腸炎 (257) [↑67]	4 感染性胃腸炎 (190)	4 RSウイルス感染症 (236)
5 RSウイルス感染症 (84) [↓26]	5 RSウイルス感染症 (110)	5 感染性胃腸炎 (228)
6 その他 (113) [↓60]	6 その他 (173)	6 その他 (242)
(合計 2,090)	(合計 2,505)	(合計 3,137)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は2,090件であり、17%(415件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
手足口病	80%	インフルエンザ	78%
感染性胃腸炎	35%	新型コロナウイルス感染症	53%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10%	RSウイルス感染症	24%
		ヘルパンギーナ	20%

3 コメント

【手足口病】

県内全域に警報を発令しています。飛沫や手指を介して感染し、便にもウイルスが排出されます。原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前の手洗いの徹底、換気などの感染予防をお願いします。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

県内全域に警報を発令しています。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

また、まれにA、B、G群等の溶血性レンサ球菌の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合がありますため、土に触れた手などの不潔な手で直接傷口を触らないなど、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

県内全域に発令していた感染注意情報を9月4日に解除しましたが、依然として一定数の患者報告が続く、集団感染事例も散発しています。手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。

【百日咳】

6月以降、東部地区で小学生から高校生を中心に流行が続いており、注意が必要です。有効な予防法は予防接種ですが、ワクチンの免疫効果は4～12年で弱まってくるといわれており、乳幼児期に接種した方でも感染することがあります。咳などの症状がある場合は早めに受診し、手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

【マイコプラズマ肺炎】

全国的に感染者数が増加しています。本県は全国と比較すると低い水準ですが、増加傾向となっています。手洗い、咳エチケット及びタオルの共用を避けるなどの感染予防をお願いします。

【ダニ媒介感染症】

ダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や日本紅斑熱の感染報告が続いていますので注意しましょう。マダニは春から秋にかけて活発となることから、野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。

【梅毒】

本年は9月末時点で昨年1年間の29件を超える32件の感染が報告されており、注意が必要です。感染した場合は、適切な治療が必要であり、早期発見することで感染症拡大防止につながります。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年12月10日(火)
感染症対策センター
(衛生環境研究所)

令和6年第40週から第44週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(40週～44週)5週 (R6.9.30～R6.11.3)	前回(35週～39週)5週 (R6.8.26～R6.9.29)	前々回(30週～34週)5週 (R6.7.22～R6.8.25)
1 手足口病 (663) [↓ 50]	1 新型コロナウイルス感染症 (833)	1 新型コロナウイルス感染症 (1,980)
2 A群溶血性連鎖球菌咽頭炎 (420) [↓ 100]	2 手足口病 (713)	2 手足口病 (503)
3 感染性胃腸炎 (346) [↑ 28]	3 A群溶血性連鎖球菌咽頭炎 (520)	3 A群溶血性連鎖球菌咽頭炎 (448)
4 新型コロナウイルス感染症 (291) [↓ 542]	4 感染性胃腸炎 (318)	4 感染性胃腸炎 (251)
5 インフルエンザ (68) [↑ 43]	5 R S ウイルス感染症 (118)	5 R S ウイルス感染症 (183)
6 その他 (141) [↓ 22]	6 その他 (163)	6 その他 (233)
(合計 1,929)	(合計 2,665)	(合計 3,598)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は1,929件であり、28%(736件)の減となった。

増加した疾病	減少した疾病
インフルエンザ 172%	ヘルパンギーナ 83%
咽頭結膜熱 13%	R S ウイルス感染症 75%
感染性胃腸炎 9%	新型コロナウイルス感染症 65%
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 19%
	手足口病 7%

3 コメント

【インフルエンザ】

全国と同様に県内でも流行期入りしました。場面に応じたマスクの着用や換気、手洗い、手指消毒などの感染対策をお願いします。ワクチンは主に重症化予防に効果がありますので、希望される方は早めの接種を検討しましょう。

【マイコプラズマ肺炎】

全国的に感染者数が増加しており、本県においても10月以降増加しています。手洗い、咳エチケット及びタオルの共用を避けるなどの感染予防をお願いします。

【百日咳】

6月以降、東部地区で小学生から高校生を中心に流行が続いており、10月に100人を超える患者報告がありました。長く続く咳が特徴で、感染力が非常に強いため、注意が必要です。

有効な予防法は予防接種であり、乳幼児期に定期接種を受けることが重要ですが、ワクチンの免疫効果は4～12年で弱まってくるといわれており、接種済みの方でも感染することがあります。ワクチン未接種の新生児や早期乳児が感染すると重症化しやすいため、赤ちゃんや妊産婦のおられるご家

庭では、周囲の家族などが感染源とならないよう特に注意してください。咳などの症状がある場合は早めに受診し、手洗い、マスクの着用、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

【手足口病】

県内全域に警報を発令しています。飛沫や手指を介して感染し、便にもウイルスが排出されます。原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前の手洗いの徹底、換気などの感染予防をお願いします。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

県内全域に警報を発令しています。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

また、まれにA、B、G群等の溶血性レンサ球菌の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合がありますため、土に触れた手などの不潔な手で直接傷口を触らないなど、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。

【ダニ媒介感染症】

ダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や日本紅斑熱の感染報告が続いていますので注意しましょう。マダニは春から秋にかけて活発となることから、野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。

【梅毒】

本年は10月末時点で過去最多であった令和2年の32件を上回る37件の感染が報告されており、注意が必要です。感染した場合は、適切な治療が必要であり、早期発見することで感染症拡大防止につながります。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年12月17日(火)
感染症対策センター
(衛生環境研究所)

令和6年第45週から第48週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(45週～48週)4週 (R6.11.4～R6.12.1)	前回(41週～44週)4週 (R6.10.7～R6.11.3)	前々回(37週～40週)4週 (R6.9.9～R6.10.6)
1 インフルエンザ (427) [↑362]	1 手足口病 (510)	1 手足口病 (625)
2 感染性胃腸炎 (359) [↑69]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (319)	2 新型コロナウイルス感染症 (517)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (292) [↓27]	3 感染性胃腸炎 (290)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (403)
4 手足口病 (169) [↓341]	4 新型コロナウイルス感染症 (182)	4 感染性胃腸炎 (242)
5 新型コロナウイルス感染症 (163) [↓19]	5 インフルエンザ (65)	5 RSウイルス感染症 (64)
6 その他 (136) [↑33]	6 その他 (103)	6 その他 (103)
(合計 1,546)	(合計 1,469)	(合計 1,954)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は1,546件であり、5%(77件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	557%	手足口病	67%
マイコプラズマ肺炎	175%	咽頭結膜熱	40%
伝染性紅斑	173%	新型コロナウイルス感染症	10%
感染性胃腸炎	24%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8%

3 コメント

【伝染性紅斑】

12月11日に県内全域で警報を発令しました。飛沫や手指を介して感染し、原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。特に、妊娠中に感染した場合、胎児へ影響する可能性があるため、注意が必要です。

【インフルエンザ】

11月上旬に流行期入りし、増加傾向が続いています。場面に応じたマスクの着用や換気、手洗い、手指消毒などの感染対策をお願いします。ワクチンは主に重症化予防に効果がありますので、希望される方は早めの接種を検討しましょう。

【マイコプラズマ肺炎】

全国的に感染者数が増加しており、本県においても10月以降増加しています。手洗い、咳エチケット及びタオルの共用を避けるなどの感染予防をお願いします。

【百日咳】

6月以降、特に東部地区で小学生から高校生を中心に流行が続いており、11月以降は西部地区でも増加傾向です。長く続く咳が特徴で、感染力が非常に強いため、注意が必要です。有効な予防法は予防接種であり、乳幼児期に定期接種を受けることが重要ですが、ワクチンの免疫効果は4～12年

で弱まってくるといわれており、接種済みの方でも感染することがあります。ワクチン未接種の新生児や早期乳児が感染すると重症化しやすいため、赤ちゃんや妊産婦のおられるご家庭では、周囲の家族などが感染源とならないよう特に注意してください。咳などの症状がある場合は早めに受診し、手洗い、マスクの着用、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

県内全域に警報を発令しています。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

また、まれにA、B、G群等の溶血性レンサ球菌の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合がありますため、土に触れた手などの不潔な手で直接傷口を触らないなど、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。

【手足口病】

12月11日に警報は解除となりましたが、感染者の報告が続いています。原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、引き続きトイレの後やおむつ交換の後、食事の前の手洗いの徹底、換気などの感染予防をお願いします。

【梅毒】

本年は11月末時点で過去最多であった令和2年の32件を上回る39件の感染が報告されており、注意が必要です。感染した場合は、適切な治療が必要であり、早期発見することで感染症拡大防止につながります。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和7年1月23日(木)
感染症対策センター
(衛生環境研究所)

令和6年第49週から第52週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(49週～52週)4週 (R6.12.2～R6.12.29)	前回(45週～48週)4週 (R6.11.4～R6.12.1)	前々回(41週～44週)4週 (R6.10.7～R6.11.3)
1 インフルエンザ (3,112) [↑2,685]	1 インフルエンザ (427)	1 手足口病 (510)
2 感染性胃腸炎 (459) [↑100]	2 感染性胃腸炎 (359)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (319)
3 新型コロナウイルス感染症 (444) [↑281]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (292)	3 感染性胃腸炎 (290)
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (254) [↓38]	4 手足口病 (169)	4 新型コロナウイルス感染症 (182)
5 伝染性紅斑 (62) [↑32]	5 新型コロナウイルス感染症 (163)	5 インフルエンザ (65)
6 その他 (149) [↑13]	6 その他 (136)	6 その他 (103)
(合計 4,480)	(合計 1,546)	(合計 1,469)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は4,480件であり、190%(2,934件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	629%	手足口病	78%
新型コロナウイルス感染症	172%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13%
伝染性紅斑	107%	マイコプラズマ肺炎	5%
感染性胃腸炎	28%		

3 コメント

【インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症】

インフルエンザについては、1月7日に県内全域に警報を発令しました。流行が拡大していますので注意が必要です。

新型コロナウイルス感染症は12月頃から増加傾向であり、集団感染事例も散発しています。手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策が有効です。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。

【伝染性紅斑】

12月11日から県内全域に警報を発令しています。飛沫や手指を介して感染し、原因となるウイルスはアルコールが効きにくいいため、手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。特に、妊娠中に感染した場合、胎児へ影響する可能性があるため、注意が必要です。

【マイコプラズマ肺炎】

全国的に感染者数が増加しており、本県においても10月以降増加しています。手洗い、咳エチケット及びタオルの共用を避けるなどの感染予防をお願いします。

【百日咳】

小学生から高校生を中心に流行が続いています。長く続く咳が特徴で、感染力が非常に強いため、注意が必要です。有効な予防法は予防接種であり、乳幼児期に定期接種を受けることが重要ですが、ワクチンの免疫効果は4～12年で弱まってくるといわれており、接種済みの方でも感染することがあります。ワクチン未接種の新生児や早期乳児が感染すると重症化しやすいため、赤ちゃんや妊産婦のおられるご家庭では、周囲の家族などが感染源とならないよう特に注意してください。咳などの症状がある場合は早めに受診し、手洗い、マスクの着用、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

県内全域に警報を発令しています。手洗い、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

また、まれにA、B、G群等の溶血性レンサ球菌の感染によって、突発的に発症し、重い症状を引き起こし、急速に多臓器不全が進行することがある「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全国で増加しています。主に大人が発症し、県内でも確認されています。傷口から感染する場合がありますため、土に触れた手などの不潔な手で直接傷口を触らないなど、小さな傷でも清潔に保ち、手足の腫れや痛み、発熱など感染の兆候が見られる場合は直ちに医療機関を受診しましょう。

【梅毒】

令和6年は、過去最多となる41件の感染が報告されており、引き続き注意が必要です。感染した場合は、適切な治療が必要であり、早期発見することで感染症拡大防止につながります。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

7 参 考 资 料

指定届出機関（定点把握対象の5類感染症患者定点医療機関）

令和6年12月31日現在

（1）小児科患者定点（インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症 / 19）

東部	医療法人石谷小児科医院	鳥取市上魚町 13
	おおたにこどもファミリークリニック	鳥取市国府町新通り 3-301-1
	こどもクリニックふかざわ	鳥取市南隈 565
	おくだこどもクリニック	鳥取市湖山町東 3-67
	鳥取赤十字病院	鳥取市尚徳町 117
	中山小児科内科医院	八頭郡八頭町宮谷 206-9
	田中医院	鳥取市青谷町井手 575
	医療法人社団荻原医院	鳥取市河原町長瀬 82-1
中部	こどもクリニックおんだ	東伯郡湯梨浜町田後 340-5
	医療法人まつだ小児科医院	倉吉市新町 3-1178-3
	鳥取県立厚生病院	倉吉市東昭和町 150
	医療法人せのおクリニック	東伯郡琴浦町赤崎 1984-10
西部	こどもクリニックかさぎ	米子市中町 76-2
	医療法人社団白石医院	米子市安倍 129-3
	谷本こどもクリニック	米子市榎原 1888-3
	社会医療法人同愛会博愛こども発達・在宅支援クリニック	米子市両三柳 1880
	ファミリークリニックせぐち小児科	米子市西福原 9-16-26
	岡空小児科医院	境港市浜ノ町 127
	日南町国民健康保険日南病院	日野郡日南町生山 511-7

（2）内科患者定点（インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症 / 10）

東部	医療法人安陪内科医院	鳥取市吉方温泉 3-811-2
	鳥取市立病院	鳥取市的場 1-1
	鳥取県立中央病院	鳥取市江津 730
	鳥取赤十字病院	鳥取市尚徳町 117
中部	のぐち内科クリニック	倉吉市上井町 1-8-5
	鳥取県立厚生病院	倉吉市東昭和町 150
西部	安達医院	米子市両三柳 2048
	鳥取県済生会境港総合病院	境港市米川町 44
	社会医療法人同愛会博愛病院	米子市両三柳 1880
	かわたに医院	米子市車尾南 1丁目 8-30

（3）眼科患者定点（5）

東部	前嶋眼科医院	鳥取市元町 226
	おけがわ眼科	鳥取市叶 293-12
中部	医療法人井東医院	倉吉市上灘町 172
西部	はまはし眼科医院	境港市渡町 2768-1
	ふなこし眼科ペインクリニック	米子市紺屋町 15

(4) 性感染症 (STD) 患者定点 (7)

東部	吉野・三宅ステーションクリニック	鳥取市扇町 176
	鳥取赤十字病院	鳥取市尚徳町 117
	鳥取産院	鳥取市吉方温泉 1-653
中部	医療法人清生会谷口病院	倉吉市上井町 1-13
西部	山本クリニック	米子市車尾南 1-8-32
	社会医療法人同愛会博愛病院	米子市両三柳 1880
	脇田産婦人科医院	米子市中町 123-5

(5) 基幹患者定点 (5)

東部	鳥取市立病院	鳥取市の場 1-1
	鳥取県立中央病院	鳥取市江津 730
中部	鳥取県立厚生病院	倉吉市東昭和町 150
西部	鳥取県済生会境港総合病院	境港市米川町 44
	鳥取大学医学部附属病院	米子市西町 36-1

(6) 疑似症定点 (6)

東部	鳥取赤十字病院	鳥取市尚徳町 117
	鳥取市立病院	鳥取市の場 1-1
	鳥取県立中央病院	鳥取市江津 730
中部	鳥取県立厚生病院	倉吉市東昭和町 150
西部	鳥取県済生会境港総合病院	境港市米川町 44
	鳥取大学医学部附属病院	米子市西町 36-1

指定届出機関（定点把握対象の5類感染症病原体定点医療機関）

令和6年12月31日現在

（1）小児科病原体定点

東部	こどもクリニックふかざわ	鳥取市南隈 565
	鳥取県立中央病院	鳥取市江津 730
中部	鳥取県立厚生病院	倉吉市東昭和町 150
西部	こどもクリニックかさぎ	米子市中町 76-2
	社会医療法人同愛会博愛こども発達・在宅支援クリニック	米子市両三柳 1880
	鳥取大学医学部附属病院	米子市西町 36-1
	岡空小児科医院	境港市浜ノ町 127

（2）インフルエンザ病原体定点（指定提出機関）※小児科3、内科2選定

東部	こどもクリニックふかざわ（小児科）	鳥取市南隈 565
	鳥取県立中央病院（内科）	鳥取市江津 730
中部	鳥取県立厚生病院（小児科）	倉吉市東昭和町 150
西部	こどもクリニックかさぎ（小児科）	米子市中町 76-2
	かわたに医院	米子市車尾南 1丁目 8-30

（3）眼科病原体定点

東部	おけがわ眼科	鳥取市叶 293-12
中部	医療法人井東医院	倉吉市上灘町 172
西部	ふなこし眼科ペインクリニック	米子市紺屋町 15

（4）基幹病原体定点

東部	鳥取県立中央病院	鳥取市江津 730
中部	鳥取県立厚生病院	倉吉市東昭和町 150
西部	鳥取大学医学部附属病院	米子市西町 36-1

鳥取県感染症対策協議会情報解析部会委員名簿(令和6年)

機関等	職名	氏名	備考
鳥取大学医学部附属病院	副院長	千酌浩樹	
鳥取大学医学部附属病院	助教	倉信奈緒美	
公益社団法人 鳥取県西部医師会		瀬口正史	
鳥取赤十字病院 小児科	部長	木下朋絵	
鳥取県立中央病院 医療局小児科	部長	倉信裕樹	
鳥取県立厚生病院 医療局小児科	部長	河場康郎	